

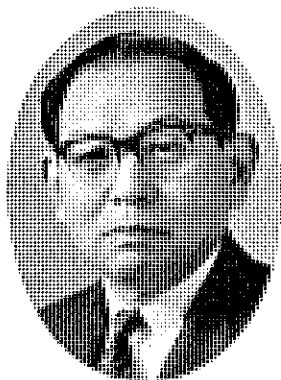
災害復旧の記録

——昭和36年6月梅雨前線豪雨——

An aerial photograph of a valley in Nagano Prefecture. In the foreground, a river flows through a rocky bed. A large, multi-story white building with a red roof is prominent. The middle ground shows a wide, sandy riverbed and a large area of brown, possibly damaged or harvested, fields. The background features steep, green mountains under a clear blue sky.

長野県

序によせて



時の経つのはまことに早いものだ。悪夢のようなあの集中豪雨のときから、はや満四年を経過した。もっとも不幸にして、被災された皆さんにとってはとても永く、そして苦しい期間の連続であったことであろう。

想いではいろいろあるが、あの日は朝から、私の耳に入ってくるニュースは、ものすごい豪雨がくるというものばかり、まことにかんばしくない。昼ごろになると長野市でも、沛然と降るかとおもうと、切ったように止む、知事室の窓からみる空は、墨のような雨雲が足早に動いている。「南

信地方はすごい雨だそうだ。」というニュースが入ってくる。夜になると長野市内の雨足の俄然はげしくなってきた。午後九時頃であったであろうか、このままではいけない、即刻必要なあらゆる手を打たなくてはと決意して部長会議を招集した。九時半頃には全部長が担当の資料を持って緊張した表情で集まった。水防の状況と今後の緊急対策、厚生救護、食糧資材の輸送対策、上流の水量調整等を相談し、現地担当の部長には直ちに出發をしてもらい、その夜はまんじりともせずあちこちから断片的に入ってくる被害ニュースによって、つぎつぎと応急対策を構じて過ぎていった。

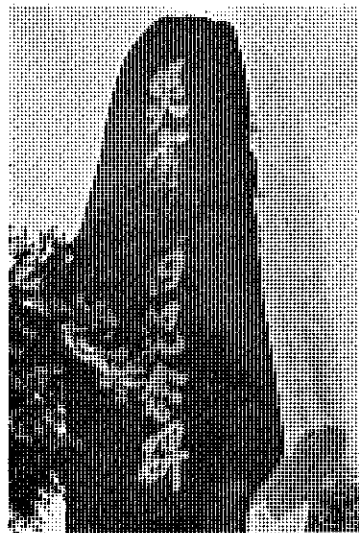
翌日、私はできるだけ早く被災地に行って災害の状況を把握し、現地の人達をすこしでも慰めるべきであると考え、どこまでゆけるのか、途中道路はどうなっているのか被害が起きつつあるときなので状況がよくつかめないけれども、とにかく被害の中心地飯田市までは歩いてでも行ってやろうと決意して現地に向かった。

行ってみるとなるほど、聞きしにまさる悲惨な状態で、私には「ガンバッテ下さい。私も皆さんの先頭になって力一杯やります。」と力づけて歩くのが精一杯であった。

あのとき、限られた時間ではあったが、可能なかぎり被害の状況をつかんだことは、その後上京してから中央との折衝に大きく役立つことができた。

被災地から県庁に帰って上京までの四十分ばかりの間に、〃にぎりめし〃を食べながら部課長に必要な事項を指示し、東京に向かった。その後十日間ばかりというものは、文字どおり「夜を日についで」応急、恒久対策にかけづりまわった。

当時の思い出はつきない。アメリカから帰った翌日の池田首相に総理官邸で、集団移住（その時はこんな言葉もまだなかった）復旧事業の早期完成、復旧の恒久改良化等陳情し深く同情をされ激励を受けたこと、災害対策知事会の会長として、他県知事とともにあち



こちと陳情して歩いたこと……………。

深夜、雑司ヶ谷の宿舎に県庁から電話が入る。「大鹿方面の生藕が輸送できないので、蛾が出てしまう。なんとかヘリコプターの手配を自衛隊に依頼してほしい」と、早速翌朝市ヶ谷の自衛隊に行って相談したところ、彼等の言うことに「天候が悪いのでヘリコプターが飛べない。」と、そこで「それでは最近の戦争は雨が降ればやらないのか。」とこちらも気がせいっているので頼みにいきながらつい口にてでしまう、などといったこともあった。

それにしても被災した皆さんは、肉親を失い、家や田畑を流された苦渋から、ほんとうに良く立直っていただいたものだと思う。また卒先活躍された国、県議会の皆さん、市町村関係者、消防団、自衛隊等の方々、県の職員、皆ほんとうに良くやっていただいた。ここにあらためて心から感謝を申しあげる。

復旧の途上、私は何回も、ときに直接現地に行って、ときにヘリコプターで空からみてきたけれども、仕事は順調に進んで、さすがのあばれ天竜も兩岸をガッチリと固められてしまったようだ。

あのと時の犠牲となられた諸靈のご冥福を心からお祈りしてやまない。

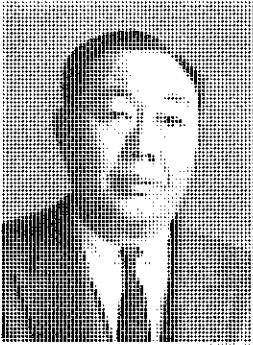
再びあのような悲惨な災害は繰返してはならない。

昭和 40 年 3 月

長野県知事

西澤権一

刊 行 の こ と ば



「天竜くればしぶきに濡れる」

わが国の典型的な急流天竜川の情緒は、この伊那節の一節にみごとにうたいつくされています。しかし、詩趣ゆたかなこの天竜川も、流域一帯の特殊な地質構造のため、ひとたび異常降雨に見舞われると、たちまちぼう大な土砂を流出してそのたびごとに、大小の災害が発生し、いわば天竜川の生いたちは、災害の歴史であるといってもよい程で、「あばれ天竜」の名で知られております。

長野県としては稀有の大災害といわれた34年災の復旧工事に懸命の努力を注いでいた矢先、昭和36年6月23日から県下一帯に長雨をもたらした梅雨前線が、同25日以降、おりから接近した台風6号の刺激を受けてにわかには活発化し、県下各地に予想外の豪雨をもたらし、特に天竜川水系は27日夜半から28日朝にかけて、連続降雨量は300-600ミリメートルという記録的な数字に達し、流域一帯の被害は、その規模において、また激甚さにおいて本県災害史上空前のものとなったのであります。

被災直後の航空写真を見ると、伊那谷をはさむ両側山岳地帯の、谷という谷、沢という沢ことごとくに、文字どおり凄惨な爪あとが鋭く刻まれ、また天竜本支川は至るところで溢水し、多数の人家や耕地が濁流に呑まれるという大惨状を呈しています。

かくして、伊那谷一帯の被害は全県下の90パーセントに及び、154名に上る犠牲者を筆頭に各般の分野にわたり、土木施設関係においては、実に160億円、関連事業助成事業を含めると180億円の巨額に達し、しかも伊那谷の狭い地帯に集中したため、従来の災害処理に対する概念を切換えなければならぬ場面にも、一再ならず遭遇したのであります。県、地元、建設業界、それに自衛隊の方々が臨機応変に異常の力を出し合って、難しい事態をよく克服し、応急措置もその後の復旧計画も今考えても、あの混乱の中で極めて組織だてて適切に進められたと思うのであります。建設省当局の御好意により査定も円滑に行なわれ、又建設業界も受注態勢を確立して協力していただき、県も機構を整備して工事執行の一切の権限を建設事務所長に委任するなど、思い切った措置を構じてひたすら復旧へとばく進したのであります。

それから3年有余。

復旧途上懸念された被害もほとんどなく、順調に進捗してここに見ちがえるように見事に完成をみたことは、ひとえに被災地をはじめ広く県民の皆様方の強い復興への意欲は申すまでもなく、国、県、地元市町村の積極的な御援助と御協力、更には寝食を忘れて挺身された職員の方々の御努力、幾多の困難を乗り越えて、専心工事の遂行にあたられた県内外建設業者各位の御協力のためのものであり、ここに心から感謝の意を表する次第であります。また、被災直後はるばる全国各地から応援された建設省及び各府県派遣職員の日夜を分たぬ御尽力に負う所絶大なものがあつたことを特記し、併せて深甚なる謝意を表する次第であります。

さいわいこの災害の復旧に対しては、大巾な改良工事が併せて施工され、今後の治水対策に大きな効果が期待されるとともに、これを契機として天竜川水系治水計画の改訂が行なわれ、沿岸住民多年の宿願であった根本的な治水恒久対策が急速に進められつつあることはまことに御同慶にたえないところであります。またこの間、われわれは多くの貴重な体験や尊い教訓を学び、同時に将来における治水、防災対策に資する多くの指針を得られたことは、災害の多い本県にとって大きな意義をもつものとする次第であります。

この意味において、復旧事業の完成を機会に災害発生の経過、被害の状況、応急対策、復旧事業等土木部関係を中心とした概要を取りまとめ、「36災の記録」として刊行を企図したものであるが、幾分でも皆様方の御参考になり、また記念として御覧願えれば幸であります。

昭和40年3月

長野県土木部長

小 林 武 雄

序によせて……………長野県知事西沢権一郎

刊行のことば……………長野県土木部長小林武雄

表紙題字 長野県知事西沢権一郎

目 次

第一章 気 象

- 1—1 はじめに…………… 1
1—2 気象の概要…………… 4

第二章 被 害

- 2—1 被害の概要…………… 9
2—2 公共土木施設等の被害および復旧額の状況……………12
2—3 一般被害およびその他の被害……………13

第三章 水防と応急対策

- 3—1 水防本部の設置……………25
3—2 災害対策本部の設置……………25
3—3 水防活動の状況……………26
3—4 自衛隊の活動状況と応急対策……………28
3—5 救護活動……………34
3—6 災害救助の実施状況……………35
3—7 政府関係官の現地視察および調査……………41
3—8 復旧工事のために……………41

第四章 復 旧

- 4—1 復旧の概況……………45
4—2 昭和36年公共土木施設災害復旧事業費と復旧の経過……………45
4—3 建設省直轄災害復旧工事……………50
4—4 県工事事町村工事関係……………53
4—5 特殊緊急砂防事業の概要……………94
4—6 飯田都市計画水害復興城東地区土地区画
整理事業の概要…………… 101

第五章 集 団 移 住

- 5—1 集団移住対策事業の概要…………… 103
5—2 施行状況…………… 104

第六章 そ の 他

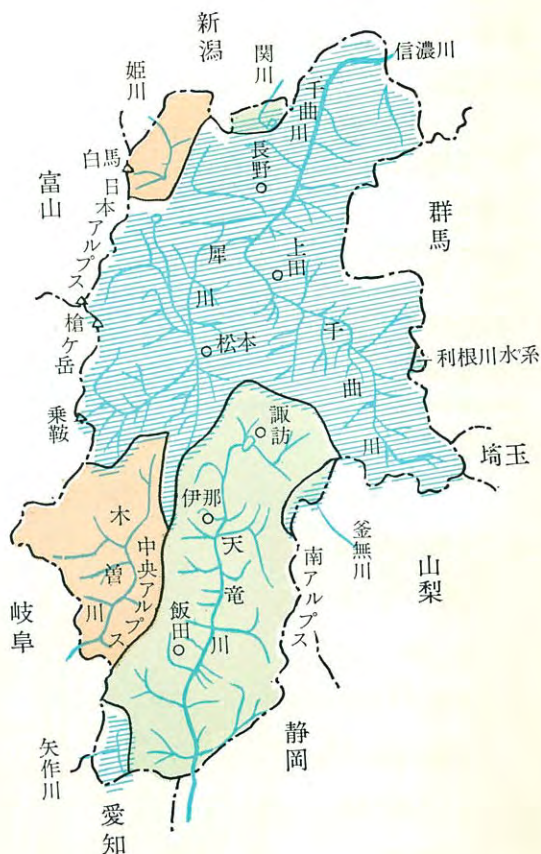
- 6—1 災害日誌の抜すい…………… 105
6—2 昭和36年～39年における関係者名簿…………… 109
6—3 図表の索引…………… 114

—編集後記—

図-1 長野県の水系概況

1-1 はじめに

昭和36年6月梅雨前線豪雨による災害と、復旧の記録のはじめに、長野県の河川の概況と、被害の中心になった天竜川の概況について、そのあらましを紹介しよう。



(1) 長野県水系の諸元

表-1 長野県内水系の諸元

| 水系 | 流域面積 Km ² | 標準別占有面積% | | | | | 傾斜別占有面積% | | | | 土地面積Km ² ()内は% | | | | | 人工密度 人/Km ² 昭35国調より |
|-----|-------------------------|------------|-------------------|---------------------|---------------------|-------------|----------|----------------|-----------------|-----------|----------------------------|----------------|------------------|----------------|------------------|--------------------------------------|
| | | 500m 以下 | 500 ~ 1,000 | 1,000 ~ 1,500 | 1,500 ~ 2,000 | 2,000 以上 | 50 未満 | 50 ~ 150 | 150 ~ 300 | 300 以上 | 田 | 畑 | 山林 | 原野 | 宅地 | |
| | | 千曲川 | 7,471 | 8 | 47 | 26 | 14 | 5 | 15 | 40 | 25 | 20 | 481.8 (6.5) | 624.6 (8.4) | 4806.2 (65.5) | |
| 天竜川 | 3,714 | 4 | 35 | 44 | 12 | 5 | 10 | 35 | 30 | 25 | 168.5 (4.5) | 182.8 (4.9) | 2741.2 (74.0) | 72.9 (1.9) | 33.5 (0.9) | 518,092 (139) |
| 木曾川 | 1,565 | 2 | 17 | 45 | 31 | 5 | 2 | 18 | 30 | 50 | 15.0 (10) | 15.4 (1.0) | 1385.6 (88.5) | 123.7 (7.9) | 2.7 (10.2) | 67,615 (43) |
| その他 | 829 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 42,214 |
| 計 | 13,579 | 5 | 40 | 34 | 16 | 5 | 12 | 35 | 2 | 25 | 704.0 (5.1) | 845.0 (6.2) | 9568.7 (70.4) | 380.4 (2.8) | 143.1 (1.1) | 1,981,505 (146) |
| 全国 | 369,660 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 60.5% | 3.8% | — | 92,006,862 (24.1) |

(2) 天龍川の概況

天龍川は、その水源を本州の中央部諏訪湖に発し、南に流れること215KM余で太平洋に注ぐ、わが国有数の大河川で、その概況は次のとおりである。

ア 流路延長および流域面積

表-2

| 種 別 | 流路延長 KM | 流域面積 KM ² | 山地の割合 |
|------|------------|-------------------------|-------|
| 長野県内 | 118 | 3,714 | 85% |
| 全流域 | 215 | 4,886 | 71% |

イ 川 幅

県内60~400m変化多し

ウ 平均河床勾配

(県内) 1/200

エ 流 量

泰阜ダム地点 (流域2,980KM²)

60~140万Fhr.M³/sec

(20年間)

既往最高

ダム築造前 5,287M³/S (大12.7.18)

ダム築造後 3,500 " (昭20.10.5)

図-2 天龍川流域概況図

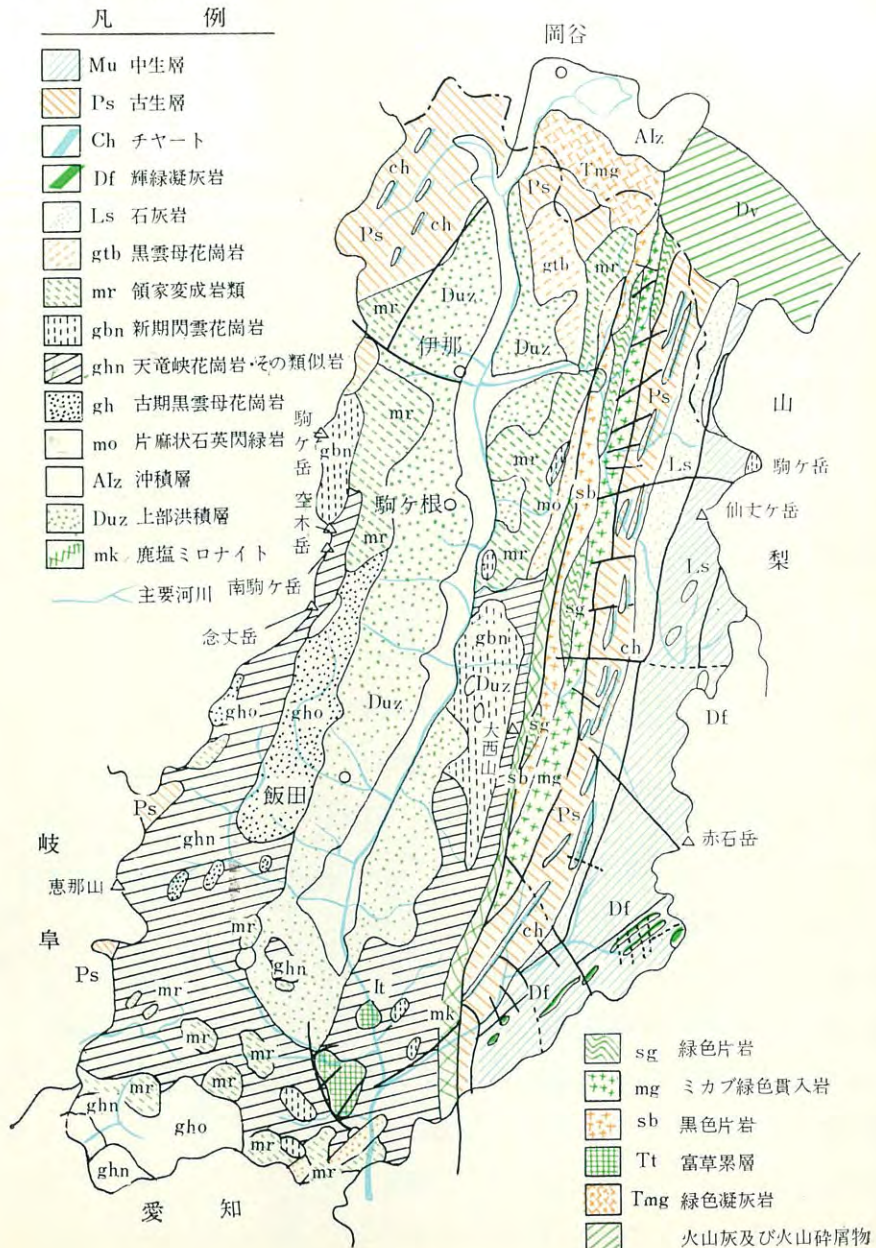


天竜川流域の特徴は中心から東よりに南北に伸びる中央構造線（諏訪湖より西日本を縦断している。）が走っており、これにより東側は外帯西側は内帯と大別され、その構造も変わっている。

流域内地質の概要は図-4 のとおりである。



図-4 流域内地質概要図



1-2 気象の概要

昭和36年度は、梅雨前線の活動が弱く、6月にはいつから雨らしい雨はほとんど降らなかった。県の北部は、特に雨量が少なく水不足は深刻なもので、各地から干害が伝えられていた。

23日ころから、本邦西方の高圧帯が急に衰えて、西日本の南方洋上は低圧部となり、関東の東方海上に高気圧の壁が形成された。このため、本州の上空に著しく湿った空気が南から多量に流れ込み、梅雨前線の活動を促した。久しぶりの雨は、干天の慈雨として喜ばれたが、このころ四国から紀伊半島にかけては、既にかんりの大雨となり、早くも水害の発生が伝えられた。強い雨の区域は、25日、26日と次第に東へ移動し、近畿、東海地方にひろがった。そして、前線の北上に伴って中部内陸地帯へ波及し、長野県でも日雨量50~100mmを観測した。

26日夜四国南方洋上の低圧部にあった熱帯性低気圧の一つが、発達して台風第6号と命名された。この台風の北上によって刺激された梅雨前線は、ますます活発になり東海、中部地方に豪雨が降りだした。しかも、長野県南部を東西に走っていた梅雨前線は、関東東方洋上に根を張った高気圧のため、ほとんど動かず、27日には伊那谷を中心として、県南部は、記録的な集中豪雨に襲われた。これは、西方から近づいた気圧の谷の前面に著しく湿った南の空気が舌状に流れ込んだため、県南部の上空はちようどこの空気の噴流の場にあたり、しかも、この気流は、きわめて不安定で、伊那谷一帯は、大積乱雲におおわれていた。このために、この地方では1時間40mm、10分間に14mmというような極端な集中豪雨が降った。

28日には気圧の谷が本州の東に抜け、梅雨前線は南に下がった。このため強雨域は、伊豆半島から関東南部に移り、県下の空模様は小康を得た。しかるに、気圧配置はその後もあまり変わらず、28日の夜になって新たな湿舌が前よりはやや東によって侵入した。このため、前線は再び北上して

図-5

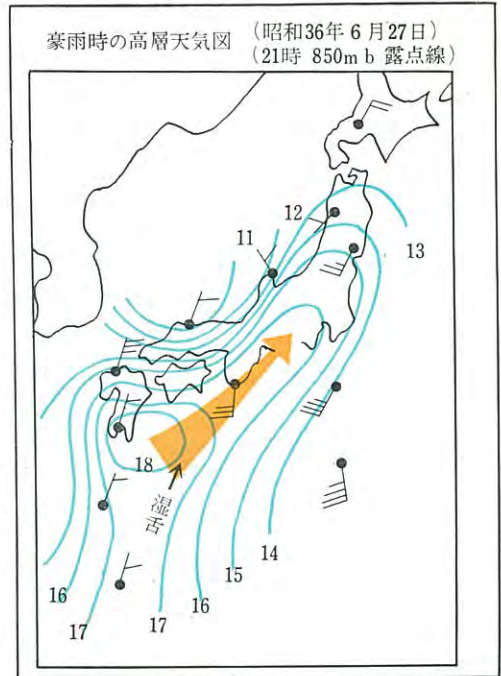


図-6

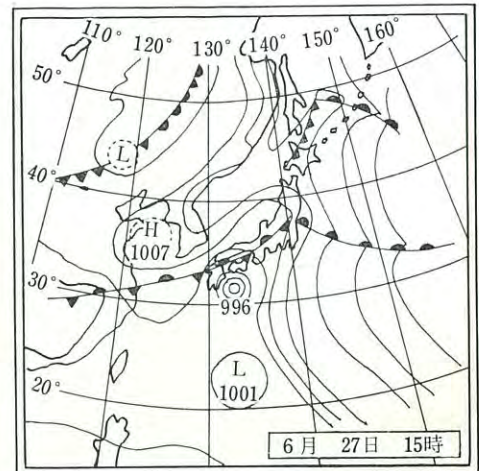
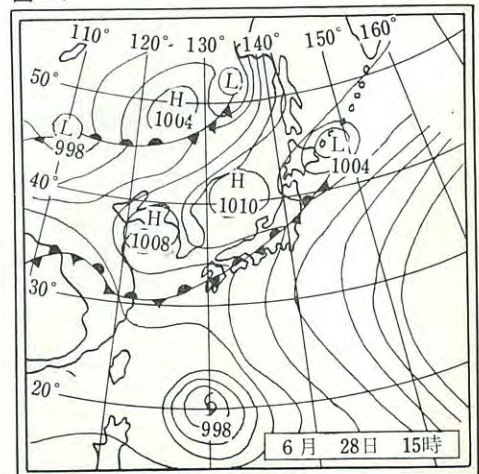


図-7



活発になり、29日の朝まで県の南東部に強雨を降らした。前線は、29日の日中にやや衰えて北上し、気圧がやや南に下がると同時に西に張り出しはじめ、西日本の南海上にあった低圧部は台湾近海に押しやられて約1週間続いた異状な気圧配置はようやく例年の梅雨末期の型に戻った。このため前線活動の中心は北に移動して強雨域が裏日本を西から東に移動し、6月30日から7月1日にかけて北陸に大雨を降らせた。

この約10日間の前線活動は、およそ半日くらいの周期で強弱をくり返した模様で、28日までは台風や熱帯性低気圧のこん跡が通った際に、また、29日以後は弱い気圧の谷が通った際に特に強められたものと思われる。

図-9

(参考)

過去における災害をおこした梅雨時の降雨量分布図

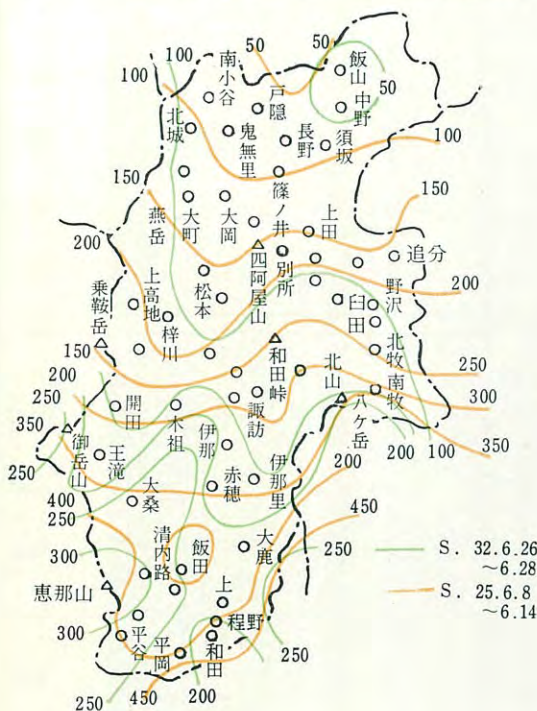
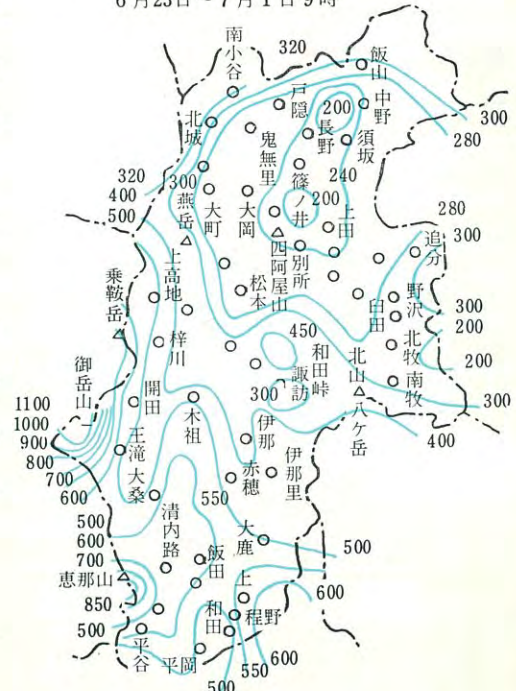


図-8

昭和36年梅雨前線豪雨連続降雨量分布図

6月23日～7月1日9時



(2) 降雨の状況

梅雨前線は、天竜川流域に異常豪雨をもたらしたが、その状況は、次のとおりである。

ア 主な地点の降雨量表

表-3

| 地点 | 降 雨 量 | | | 摘 要 |
|-----|-------------|-----------|-----------|---------------------------------|
| | 連 続 | 日最大 | 2 日最大 | |
| 御岳山 | mm 1,404 | mm 226 | mm 413 | 時間最大40mm 平均6月の1か月雨量 230mm |
| 乗鞍岳 | 932 | 167 | 304 | |
| 飯 田 | 602 | 325 | 397 | |
| 遠 山 | 560 | 241 | 385 | |
| 大 鹿 | 537 | 275 | 325 | |

イ 連続降雨量分布図 (図-8 参照)

表-4 日 雨 量 調 査

| 水系 | 観測位置 | 既往最高 | | 6 月 梅 雨 前 線 豪 雨 | | | | | | | | | | | | | | | 備 考 |
|----|------------|--------------|-------|-----------------|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|---|----|----|----|----|-----|-----|
| | | 年月日 | 日雨量 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 計 | |
| 天竜 | 下伊那郡天竜村平岡 | — | — | 1 | 17 | 46 | 61 | 218 | 100 | 45 | 1 | 7 | 0 | 4 | 1 | 0 | 13 | 514 | |
| " | 下伊那郡平谷村 | 昭20 10.4 | 246.7 | 4 | 24 | 25 | 83 | 185 | 80 | 60 | 5 | 18 | 2 | 27 | 17 | 4 | 5 | 539 | |
| " | 下伊那郡大鹿村 | — | — | 4 | 27 | 24 | 44 | 285 | 50 | 44 | 24 | 9 | 1 | 3 | 30 | 0 | 2 | 537 | |
| " | 飯田市大平 | 昭15. 6.17 | 210.7 | 1 | 33 | 25 | 116 | 229 | 56 | 68 | 37 | 13 | 5 | 34 | 75 | 8 | 14 | 714 | |
| " | 下伊那郡遠山 | — | — | 2 | 16 | 34 | 43 | 241 | 144 | 51 | 0 | 14 | — | 2 | 3 | 1 | 9 | 560 | |
| " | 諏訪郡富士見町 | — | — | 11 | 34 | 15 | 40 | 154 | 113 | 33 | 24 | — | 1 | 4 | 43 | 22 | 11 | 505 | |
| " | 伊那市伊那 | — | — | 10 | 26 | 13 | 72 | 126 | 60 | 42 | 27 | 6 | 1 | 15 | 35 | 2 | 15 | 450 | |
| " | 上伊那郡長谷村伊那里 | — | — | 4 | 33 | 16 | 46 | 250 | 38 | 34 | 18 | 6 | 1 | 1 | 31 | 2 | 6 | 486 | |
| " | 飯田市飯田 | — | — | 4 | 29 | 21 | 72 | 325 | 53 | 28 | 33 | 14 | 1 | 2 | 17 | 1 | 2 | 602 | |

表-5 代表地点における過去の降雨量との比較

| 観測所名 | 災害年 雨量 | 昭 和 20 年 | | | | | 昭 和 25 年 | | | | | 昭 和 28 年 | | | | |
|-------|-----------|----------------|---------------|----|-------|-----------|----------|-------------|----|-------|-----------|---------------|--------------|----|-------|-----------|
| | | 月日 | 最 大 日雨量 | 月日 | 日数 | 連 続 雨量 | 月日 | 最 大 日雨量 | 月日 | 日数 | 連 続 雨量 | 月日 | 最 大 日雨量 | 月日 | 日数 | 連 続 雨量 |
| 清 内 路 | 10.4 | 203.0 | 10.1 10.10 | 10 | 55.2 | 6.11 | 96.5 | 6.8 6.14 | 7 | 360.9 | 7.17 | 123.3 | 7.16 7.24 | 9 | 425.5 | |
| 飯 田 | 10.4 | △43.2 105.3 | 10.1 10.11 | 11 | 417.8 | 6.10 | 80.0 | 6.6 6.14 | 9 | 358.5 | 7.19 | △26.7 69.5 | 7.16 7.24 | 9 | 214.6 | |
| 大 鹿 | 10.4 | 184.2 | 10.2 10.11 | 10 | 368.3 | 6.13 | 102.7 | 6.8 6.14 | 7 | 381.6 | 7.19 | 96.0 | 7.16 7.23 | 8 | 308.0 | |
| 伊 那 里 | 10.4 | 174.3 | 10.1 10.11 | 11 | 390.6 | 6.10 | 137.9 | 6.9 6.14 | 8 | 417.0 | 7.19 | 80.0 | 7.16 7.23 | 8 | 243.0 | |

| 観測所名 | 災害年 雨量 | 昭 和 32 年 | | | | | 昭 和 34 年 | | | | | 昭 和 36 年 | | | | |
|-------|-----------|----------------|-------------|----|-------|-----------|---------------|--------------|----|-------|-----------|--------------|--------------|----|-----|-----------|
| | | 月日 | 最 大 日雨量 | 月日 | 日数 | 連 続 雨量 | 月日 | 最 大 日雨量 | 月日 | 日数 | 連 続 雨量 | 月日 | 最 大 日雨量 | 月日 | 日 数 | 連 続 雨量 |
| 清 内 路 | 6.27 | 172.4 | 6.24 7.5 | 10 | 377.5 | 8.12 | 80.0 | 8.12 8.13 | 2 | 159.0 | 6.27 | 269 | 6.23 6.30 | 8 | 587 | |
| 飯 田 | 6.27 | △32.8 178.6 | 6.24 7.5 | 10 | 361.8 | 8.12 | △10.3 76.0 | 8.12 8.15 | 4 | 151.0 | 6.27 | △40.0 325 | 6.23 6.30 | 8 | 565 | |
| 大 鹿 | 6.27 | 153.5 | 6.26 7.4 | 9 | 334.8 | 8.13 | 148.0 | 8.12 8.15 | 4 | 199.0 | 6.27 | 275 | 6.23 6.30 | 8 | 492 | |
| 伊 那 里 | 6.27 | 106.5 | 6.26 7.5 | 10 | 238.6 | 8.13 | 63.0 | 8.12 8.14 | 2 | 87.0 | 6.27 | 127 | 6.23 6.30 | 8 | 376 | |

(連続雨量) (△は時間最大雨量) (雨量単位mm)

エ 代表地点における過去の降雨量との比較

以上の表でわかるとおり、この地域に対しては、いかに降雨が異常であったか、またいかに多かったか(過去におけるこの水系の年平均降雨量(明34~昭25年までの50年間)が1.744ミリメートルである。)ということがわかるのである。

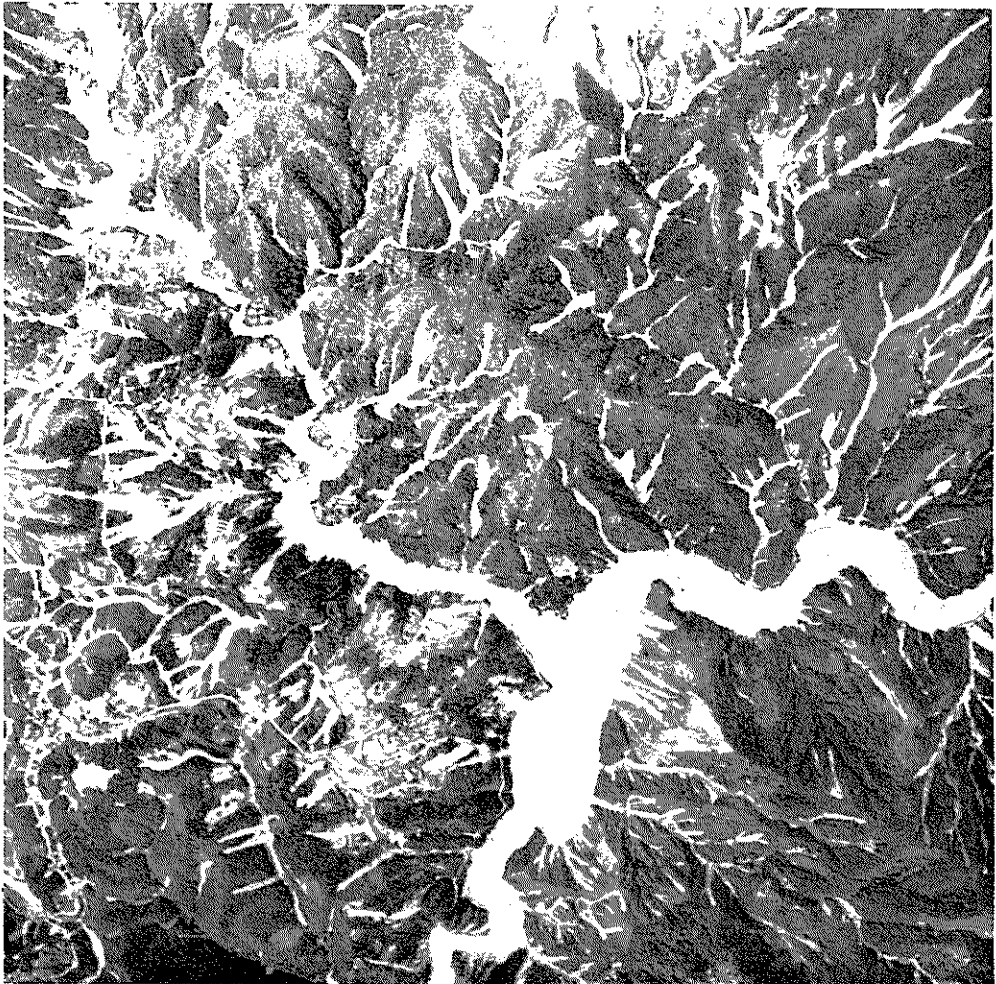
(3) 最高水位と洪水流量

洪水の出足が早く、急上昇したために、小渋川合流点より下流の量水標は、はんらん、流失等により観測不能となり、後日こん跡等によって推定せざるを得なかった。

表-6 最高水位と洪水流量

| 観測名 年次 | 沢渡水位 | 竜ノ口水位 | 時又水位 | 泰 阜 ダ ム | | 摘 要 |
|-----------|------|-------|-------|---------|---------------------|-----|
| | | | | 水 位 | 流 量 | |
| | m | m | m | m | m ³ /sec | |
| 昭20 | 2.51 | 3.64 | 7.50 | 5.20 | 3,500 | |
| 24 | 2.12 | 3.27 | 4.54 | 欠 | 1,218 | |
| 25 | 2.42 | 4.00 | 5.91 | 4.85 | 2,662 | |
| 28 | 2.12 | 3.33 | 7.58 | 4.50 | 2,468 | |
| 32 | 2.12 | 3.68 | 6.60 | 4.30 | 2,705 | |
| 33 | 1.10 | 2.80 | 5.50 | 欠 | 1,424 | |
| 34 | 2.10 | 3.40 | 6.20 | " | 1,486 | |
| 36 | 2.48 | 4.00 | 10.00 | 5.40 | 3,623 | |
| 警戒水位 | 1.50 | 1.80 | 4.30 | | | |

(・印は推定値)



むざんに削りとられたツメあと（四徳川小渋川合流点附近）
白くみえるのは崩壊した沢、太いのは小渋川と四徳川



天竜川のはらん状況（下伊那那豊丘村高森町附近）

第二章 被 害

2-1 被害の概要

梅雨前線豪雨による災害は、本県にとって250年来のものともいわれ、その被害額は340億円余におよび県政史上未曾有の大被害であった。(正徳年間末の年(1,715年)6月18日に大災害があった。247年前)

すなわち、降雨が強くなりはじめた27日の午後3時すぎ小溪流のはんらんから被害が出はじめ、夕方までには、事態が最悪のものとなり、夜にはいって被害は激増した。

文字どおり恐怖と絶望に一時はぼう然自失という言葉そのもののような状況で人的被害、家屋被害も相次ぎその惨状は目をおおわしめるものがあった。

今回の災害の特徴は、記録的な豪雨によることはもちろんであるが

- 長期間降り続いた末に大雨となった。
- 山腹の崩壊が著しく、流出土砂がぼう大なもので山津波を起こした。
- 地質がセイ弱であり(中央構造線による影響)水によって、侵蝕、崩壊を起こしやすい状態の部分が多かった。
- 天竜川の支川は本川にほぼ直通に流れ込んでおり、しかも河床勾配が急であった。

等いろいろの理由があげられている。

ことに大鹿村大西山の大崩壊による土砂は、320万立方メートルと推定され、小渋川はせき止められて流路を変えて流れるという現象を生じ、天竜川本川も飯田市水神橋付近から川路までの約10キロメートル間に90万立方メートル余の土砂のたい積をみた。

表7 昭和36年災害の府県別状況(復旧決定額)

| 順位 | 都道府県名 | 県工事 | 市町村工事 | 計 | 平均国庫負担率 |
|----|-------|--------|-------|--------|---------|
| 1 | 長野 | 11,180 | 3,372 | 14,552 | 0.934 |
| 2 | 福井 | 8,983 | 582 | 9,565 | 0.958 |
| 3 | 北海道 | 6,003 | 3,549 | 9,552 | 0.844 |
| 4 | 兵庫 | 4,915 | 876 | 5,791 | 0.697 |
| 5 | 新潟 | 4,083 | 664 | 4,747 | 0.799 |
| 6 | 静岡 | 3,401 | 806 | 4,207 | 0.711 |
| 7 | 岐阜 | 3,455 | 282 | 3,737 | 0.804 |
| 8 | 三重 | 2,864 | 647 | 3,511 | 0.748 |
| 9 | 石川 | 2,329 | 603 | 2,932 | 0.804 |
| 10 | 大分 | 2,028 | 665 | 2,693 | 0.849 |

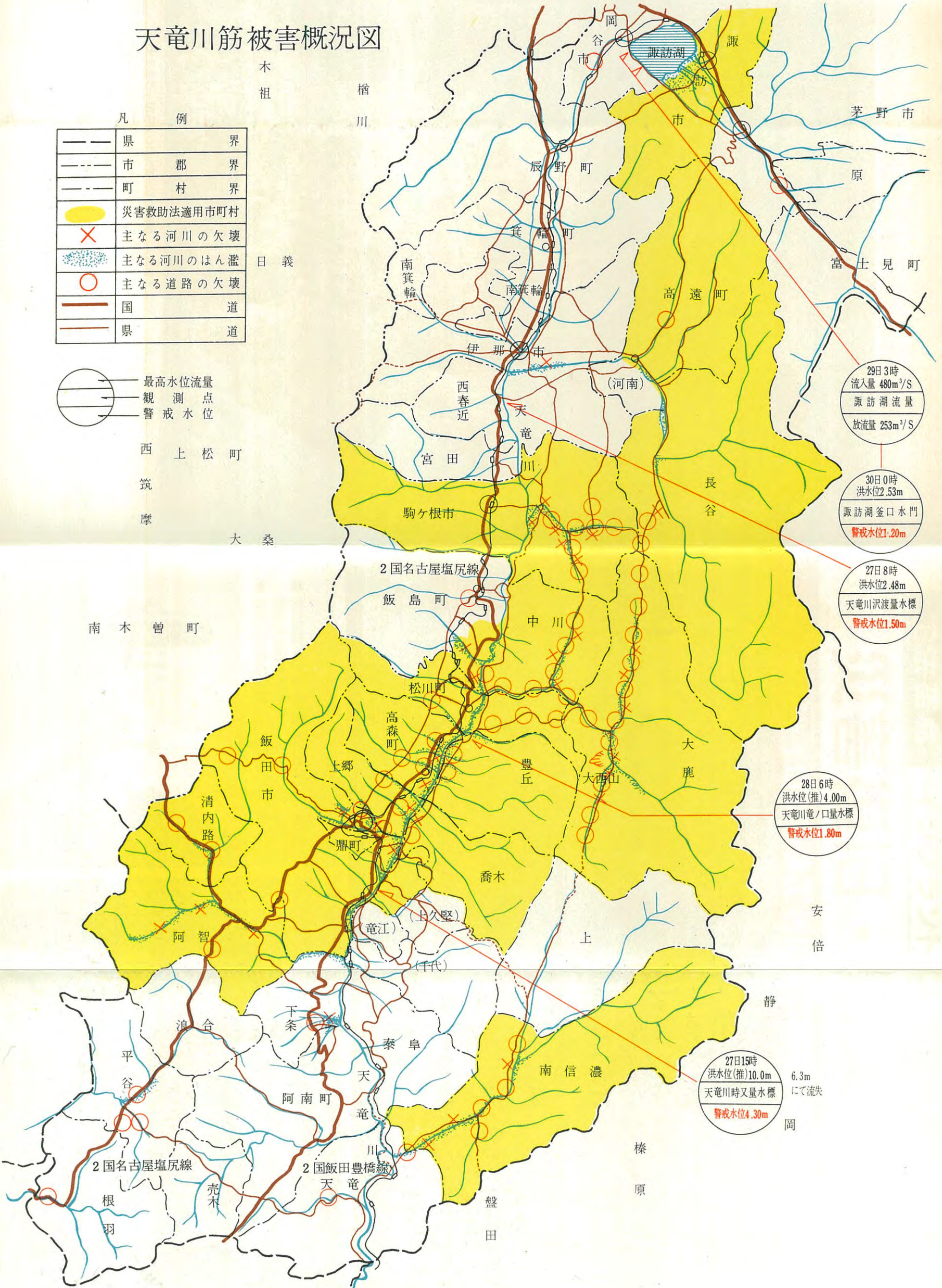
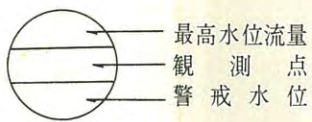
(災害統計より)



天竜川筋被害概況図

凡 例

| | | |
|-----------|------------|---|
| ——— | 県 | 界 |
| ----- | 市 郡 | 界 |
| - - - - - | 町 村 | 界 |
| ■ | 災害救助法適用市町村 | |
| × | 主なる河川の欠壊 | |
| ● | 主なる河川のはん溢 | |
| ○ | 主なる道路の欠壊 | |
| ——— | 国 | 道 |
| ——— | 県 | 道 |



29日3時
流入量 480m³/S
諏訪湖流量
放流量 253m³/S

30日0時
洪水位 2.53m
諏訪湖釜口水門
警戒水位 1.20m

27日8時
洪水位 2.48m
天竜川沢渡水量水標
警戒水位 1.50m

28日6時
洪水位(推) 4.00m
天竜川竜ノ口水量水標
警戒水位 1.80m

27日15時
洪水位(推) 10.0m
天竜川時又量水標
警戒水位 4.30m
6.3m
にて流失

西上松町
筑摩

南木曾町

安倍

静

岡

榛原

盤田

日義

大桑

木祖

檜川

茅野市

原

富士見町

高遠町

辰野町

箕輪町

南箕輪

伊那市

西春近

宮田

駒ヶ根市

2国名古屋塩尻線

飯島町

中川

松川町

高森町

上郷

飯田市

清内路

鼎町

豊丘

大西山

大鹿

喬木

竜江

(上久堅)

(千代)

上

阿智

浪合

下条

秦阜

阿南町

天竜

南信濃

平谷

2国名古屋塩尻線

根羽

2国飯田豊橋線

天竜

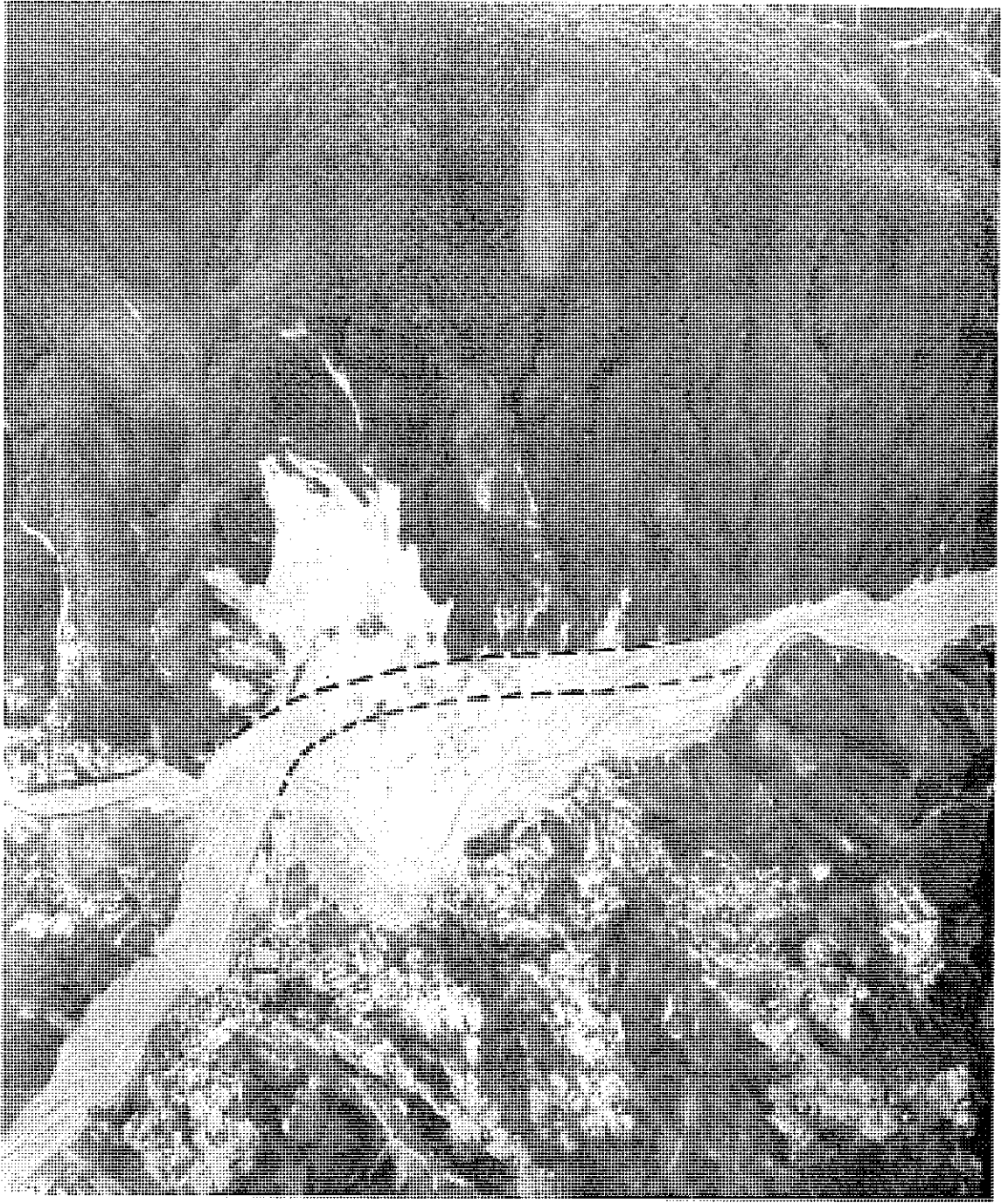
天竜川

天竜

天竜

天竜

天竜



大災害の一因となつた大西山の大崩壊（大鹿村大西山）（崩壊土砂320万立方メートル）

2-2 公共土木施設等の被害および復旧額の状況

(1) 公共土木施設の被害および復旧額の状況

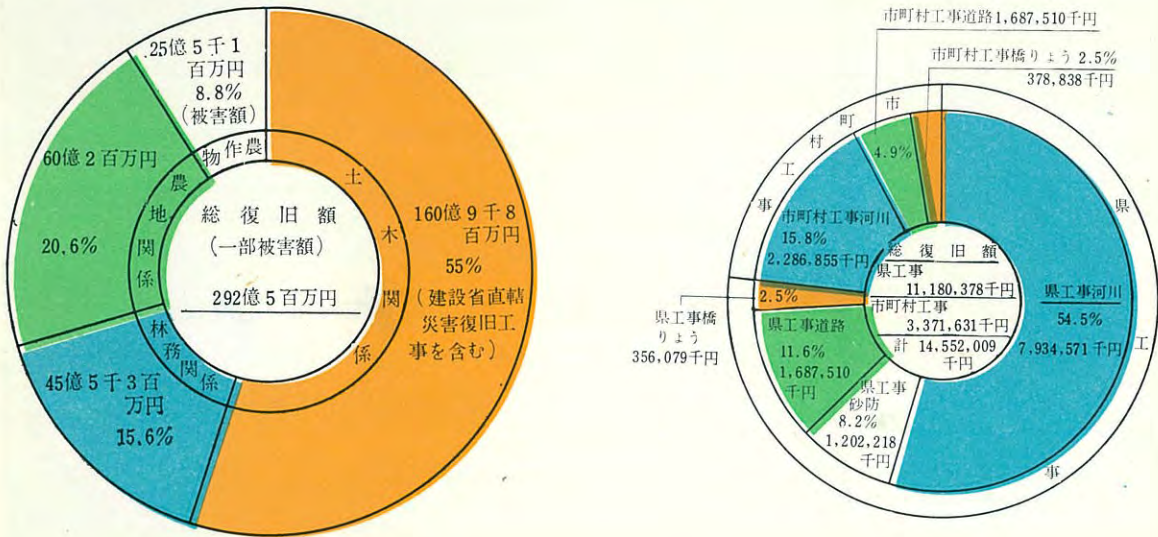
表-9

(単位百万円)

| 種 別 | 被 害 額 | 国庫補助決定額 | 同左のうち上下伊那分 | B/A | 摘 要 |
|-----------|--------|---------|------------|-----|-----|
| | | A | B | % | |
| 建設省直轄災害工事 | 1,546 | 1,546 | 1,428 | 92 | |
| 県 工 事 | 13,137 | 11,180 | 8,725 | 78 | |
| 市 町 村 工 事 | 3,978 | 3,371 | 2,872 | 85 | |
| 計 | 18,661 | 16,097 | 13,025 | 81 | |

(2) 昭和36年公共土木施設国庫負担災害所管別工種別復旧額表

表-10



(3) 農林被害総計表

表-11

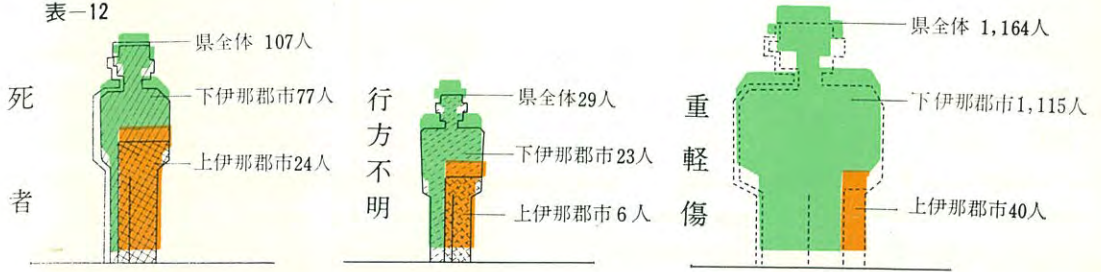
(単位：千円)

| 所管別 | 内 訳 | 県全体復旧額または被害額 | うち上・下伊那分 | 割合 A/B | 摘 要 |
|------|-------|--------------|-----------|--------|---------------------------|
| 林務関係 | 治林施設 | 3,618,740 | 2,210,144 | 61 | 被害額を示す。 |
| | 産物 | 534,277 | 469,318 | 88 | |
| | 山道等 | 400,966 | 369,069 | 92 | |
| | 計 | 4,553,983 | 3,048,531 | 67 | |
| 農地関係 | 農業用施設 | 1,906,099 | 1,885,308 | 99 | 国庫補助災害復旧額 同上 同上 |
| | 施設連 | 3,914,917 | 3,183,501 | 81 | |
| | 計 | 181,061 | 147,798 | 82 | |
| | 計 | 6,002,077 | 5,216,607 | 87 | |
| 農作物 | 果 | 1,308,462 | 688,316 | 53 | 被害額を示す。 同上 同上 同上 |
| | 稲 | 251,024 | 141,301 | 56 | |
| | 樹 | 189,331 | 146,510 | 78 | |
| | 桑 | 802,532 | 346,847 | 43 | |
| | 計 | 2,551,349 | 1,322,974 | 52 | |

2-3 一般被害およびその他の被害

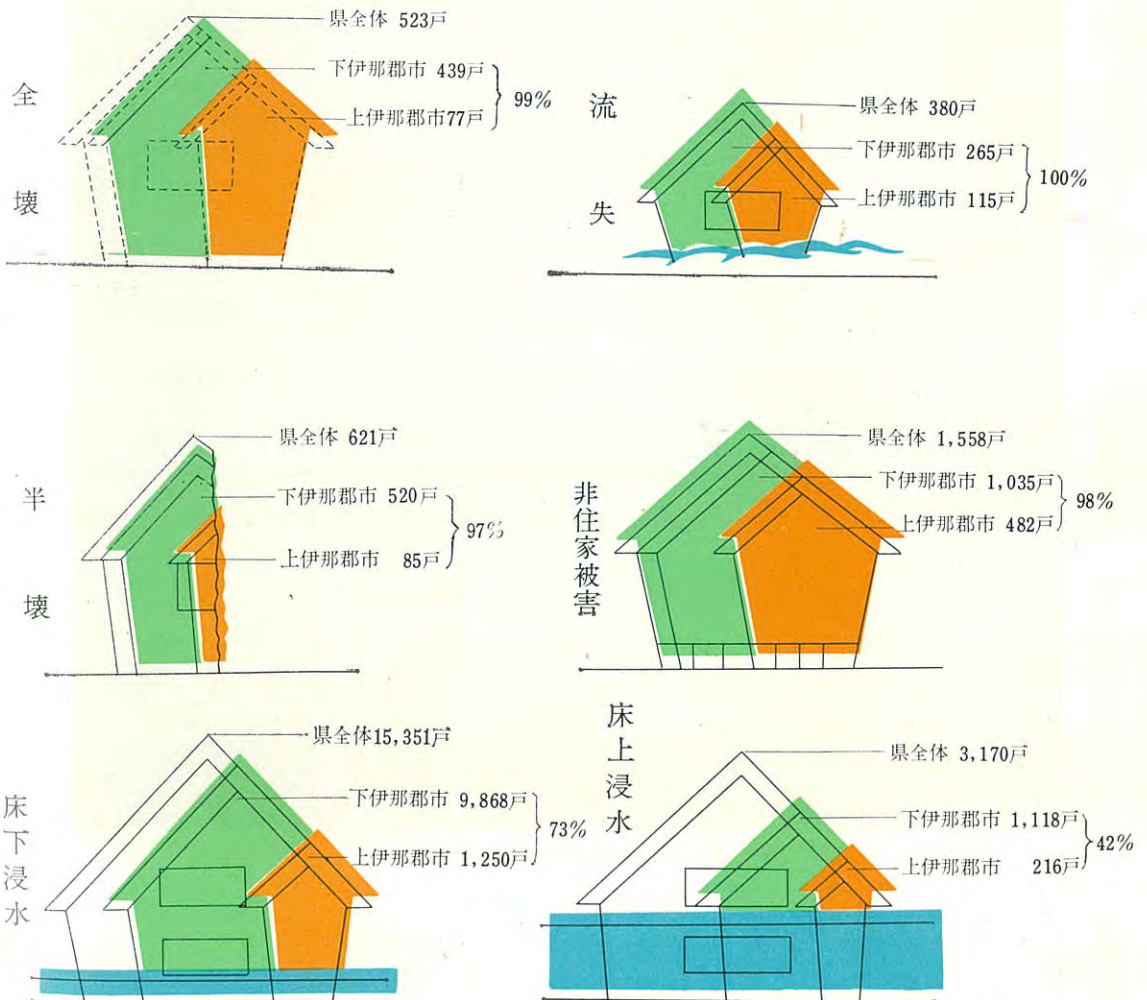
(1) 人的被害

表-12



(2) 家屋の被害

表-13



(3) 昭和36年直轄災害復旧内訳表

表-14

(単位千円)

| 工事事務所名 | 河 川 | | 砂 防 | | ダ ム | | 計 | |
|---------|-----|-----------|-----|--------|-----|--------|-----|-----------|
| | か 所 | 金 額 | か 所 | 金 額 | か 所 | 金 額 | か 所 | 金 額 |
| 千曲川工事 | 17 | 115,891 | — | — | — | — | 17 | 115,891 |
| 信濃川水系砂防 | — | — | 1 | 1,702 | — | — | 1 | 1,702 |
| 天竜川上流工事 | 42 | 1,373,797 | 3 | 31,734 | 1 | 23,000 | 46 | 1,428,531 |
| 計 | 59 | 1,489,688 | 4 | 33,436 | 1 | 23,000 | 64 | 1,546,124 |

(4) 鉄道の被害

静岡鉄道管理局管内の被害は、297件3億3千万円余におよび、中でも飯田線は下伊那を中心に大きな被害がでて185か所2億5千万円にのぼり、徹夜復旧に当たったが6月27日から7月15日まで19日間の長期にわたり不通となった。



川 路 駅 侵 水 状 況 (信毎提供)

(5) 飯田線被害総計表(県内分)

表-15

| 種 別 | 件 数 | 数 量 |
|--------|-----|--------------|
| 路盤欠壊流失 | 31 | 10,000 m^3 |
| 土砂崩壊 | 29 | 2,000 // |
| 線路侵水埋没 | 3 | 10,000 // |
| そ の 他 | 72 | |
| 計 | 135 | |

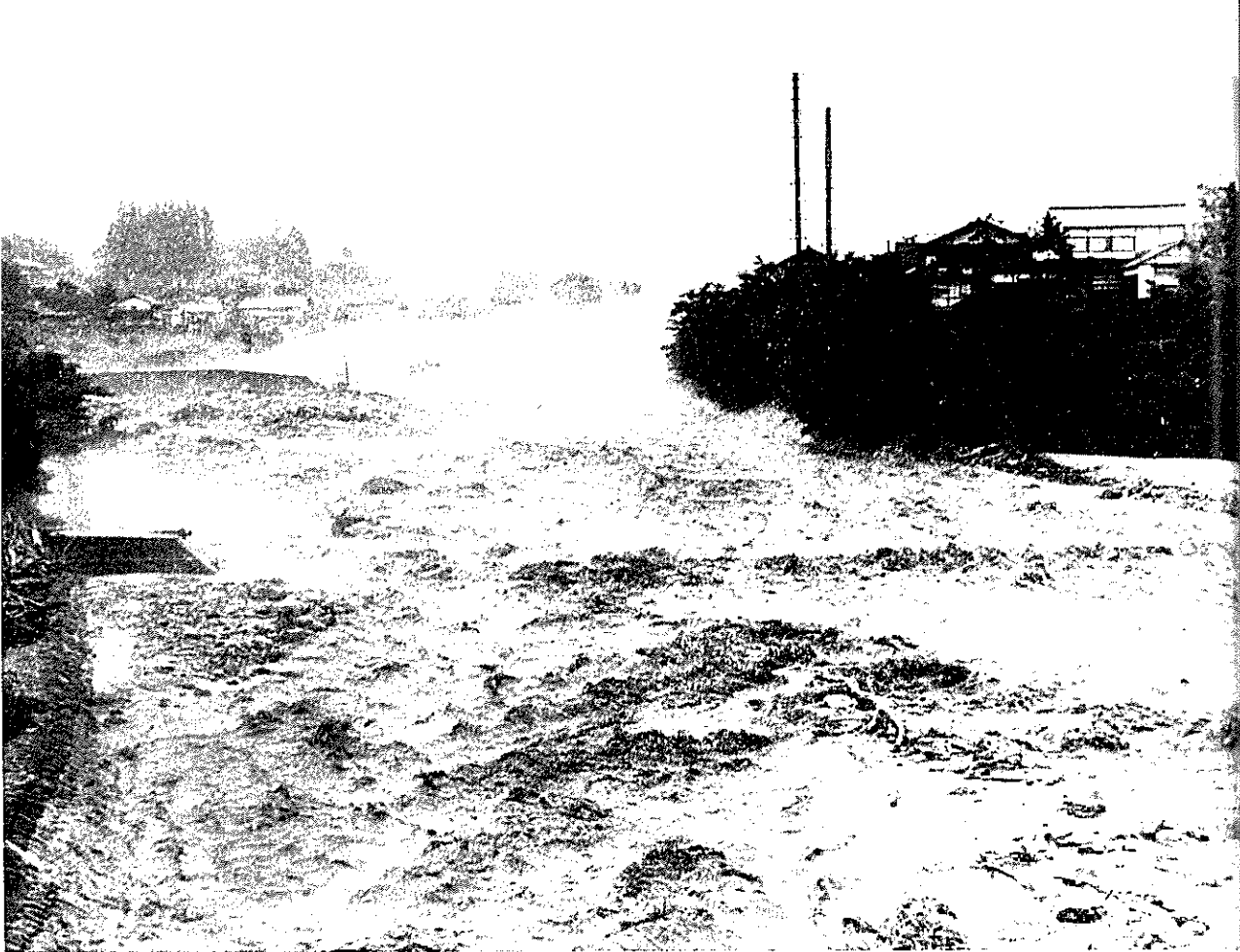
(6) その他の施設被害

表-16 単位千円

| 種 別 | 件 数 | 金 額 |
|---------|-------|---------|
| 教 育 施 設 | 45 | 128,044 |
| 観 光 施 設 | | 53,424 |
| 上 下 水 道 | | 51,378 |
| 水 産 | | 186,534 |
| 畜 産 | | 670,909 |
| 工 場 | 2,859 | 756,076 |



中川村四徳分校の惨状(信毎提供)



濁流がしぶきをあげる飯田松川（飯田市）





野底川のはんらん（飯田市内）信毎提供



被災直後の天竜川のはんらん状況（昭36.7.2.撮影）



天竜川の出水状況（飯田市時又附近）



浸水状況
（飯田市時又地籍）



濁流に洗われた市内（2級国道名古屋塩尻線飯田市北方）



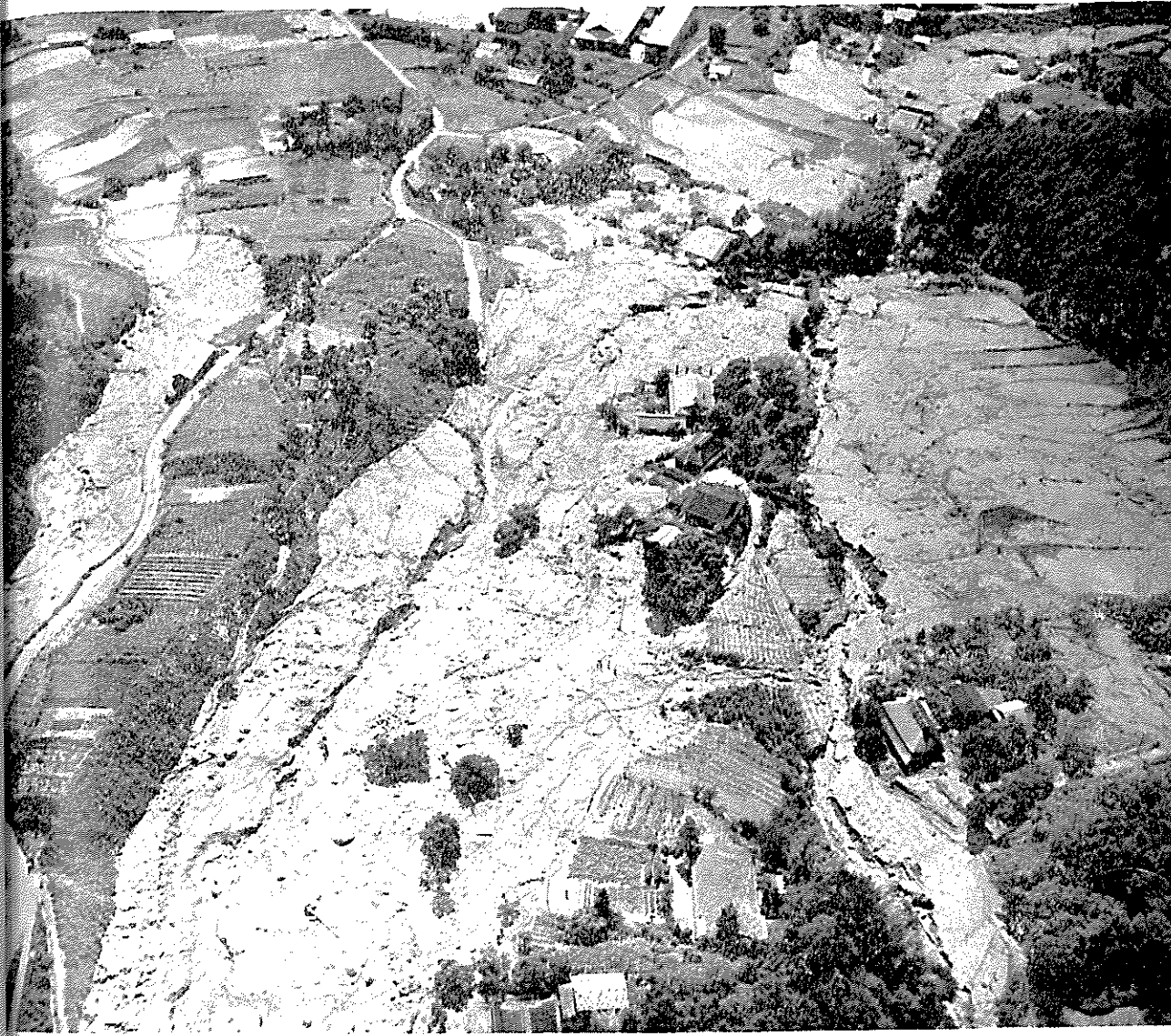
濁流に洗われた道路（県道幸助飯田線飯田市白山町）

道路にあいた大穴
(2級国道飯田豊橋線)
飯田市長船町



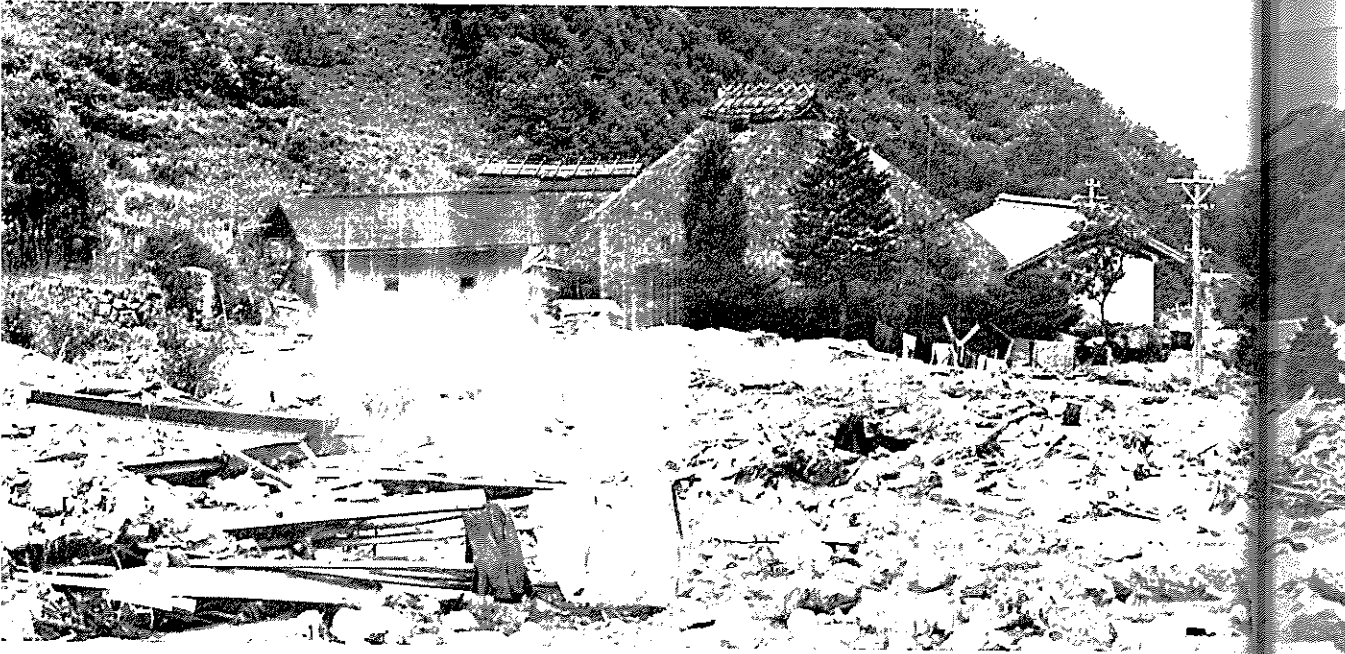
天竜川の支川はこのようにはんら
(豊丘村間沢川) 信恒





山津波と四徳川のはんらん（中川村 大草 後日集団移住によりこの地を離れた）—信毎提供—

まんらん
信毎



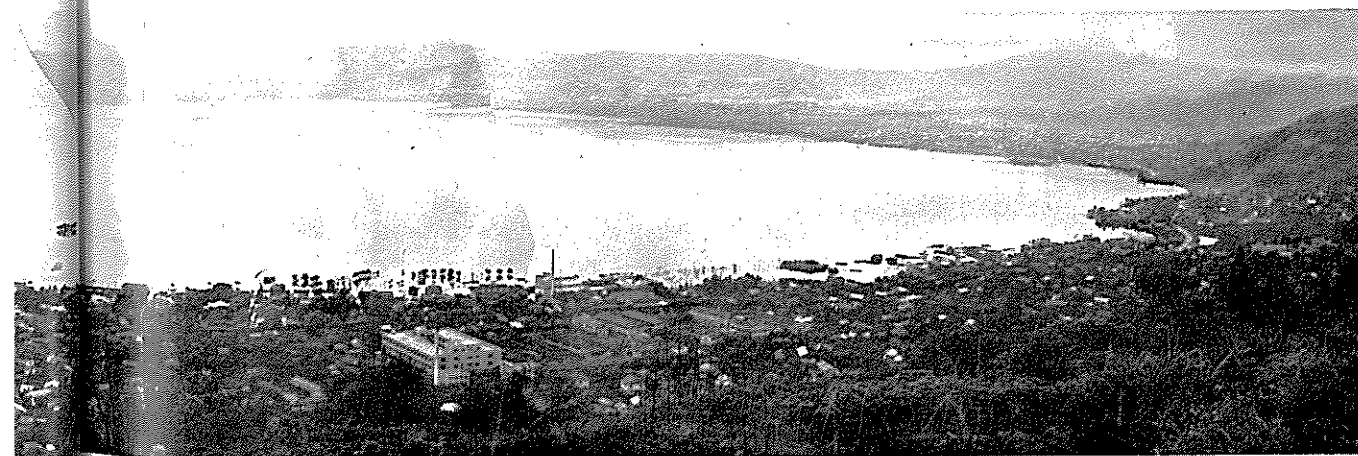
←三峰川のはらん(伊那市中県)





↑土石流に埋まった民家
(駒ヶ根市中沢上割)

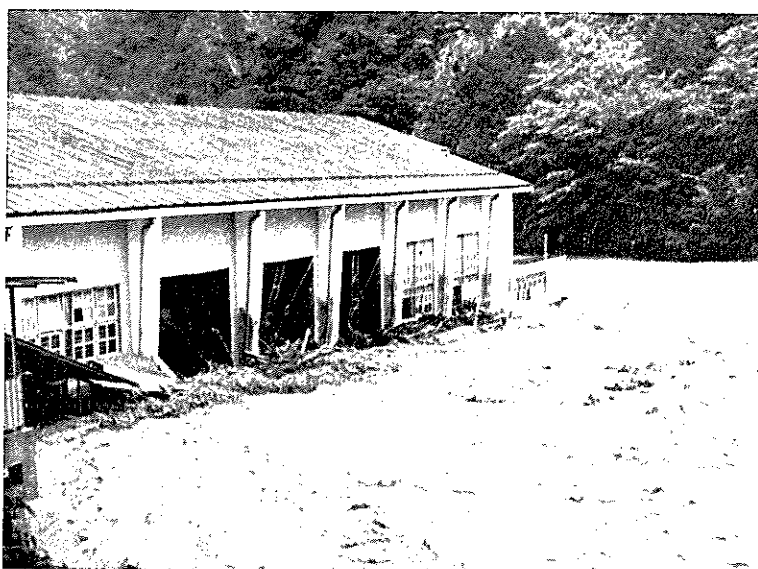
水びたしとなった諏訪市内一



諏訪湖のはんらん



山津波と四徳川のはんらん（中川村四徳）信毎提供



濁流に埋まる体育館（大鹿村鹿塩）

第三章 水防と応急対策

3-1 水防本部の設置

6月26日12時大雨情報が発令されるや、直ちに河川課内に水防本部を設置し、水防態勢に入ると共に水防無線をフルに活用して現地との連絡に当り、警戒態勢の指示水防資材の確保に、全力をあげ、また、各地区の水防団もそれぞれの部署において活躍を開始した。

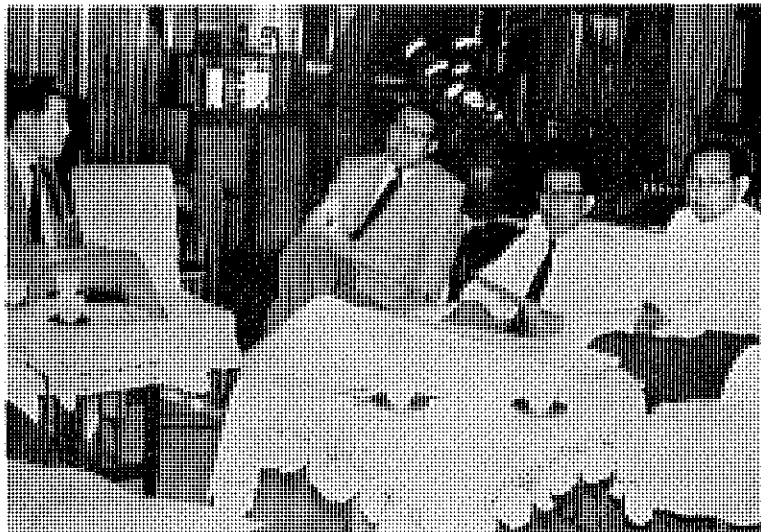
3-2 災害対策本部の設置

各地における懸命の水防活動も空しく被害はますます激甚化の様相を呈し、水防本部へ入る情報は悪化するばかりとなったため、知事は27日21時に緊急部長会議を招集して災害対策本部を設置するとともに、災害の規模が相当広範にわたり、被害が激甚であると推定されたので、円滑な救助活動を実施するため、27日午前11時下伊那郡、飯田市へ唐沢社会部長、上伊那郡、駒ヶ根市へ平野農地経済部長、西筑摩郡へ中田林務部長が救助のため現地へ出発した。その後被害者の様相が深刻化し、諏訪地方にも被害が拡大したので緊急救助の必要性から次のとおり、現地災害救助対策本部が設置され、県本庁、出先機関を挙げて総合的な救助を実施することとした。

| 所 掌 区 分 | 責 任 者 |
|-----------|--------------|
| 下伊那郡、飯田市 | 笠原副知事、唐沢社会部長 |
| 上伊那郡、駒ヶ根市 | 平野農地経済部長 |
| 諏訪郡、諏訪市 | 橋詰出納長 |

そして、引続き、災害救助法の発動、自衛隊の派遣申請の依頼、あるいは水防資材の確保と、これの輸送等全県をあげて文字どおり不眠不休でこの大災害に対処した。27日夜に至り、電々公社の電話線長

野一飯田間が不通となるなど通信施設の被害が続出、県との連絡は、水防無線と警察無線が唯一の連絡機関となったので、これをフルに活用して情報のキャッチと、これに対する対策に当った。



深夜の災害救助対策会議——県災害対策本部——

3-3 水防活動の状況

天竜川水系においては、老若男女を問わず、力の限り水防作業に当たったが、大自然の猛威の前に堤防や道路は次々と破壊され各所に家屋田畑等の流失をみるに至った。

しかし、中には最後まで頑張り抜いた地籍も見られこれらに必要な水防資材は、比較的被害の少なかった東北信地方(千曲川水系)より続々と現地へ送り込まれた。これら水防活動に要した状況は次のとおりである。

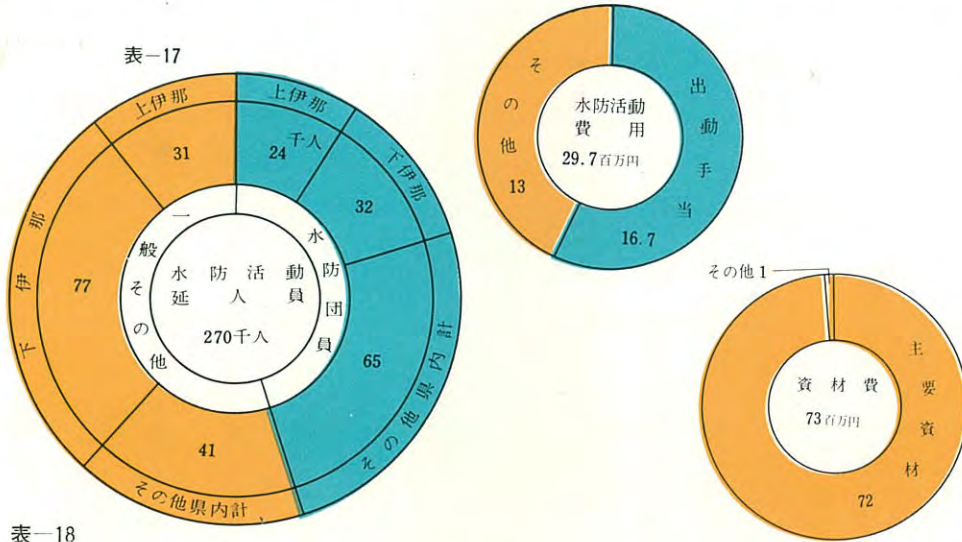
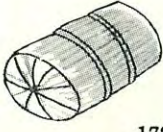
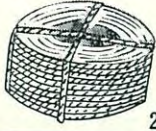

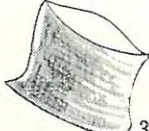
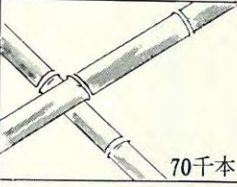

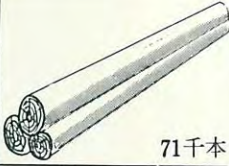
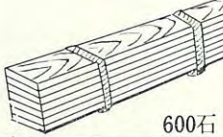
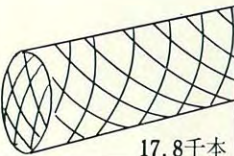


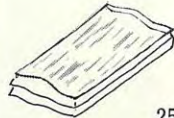
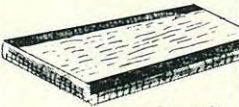


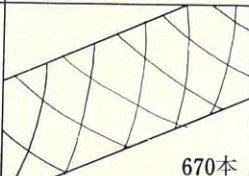
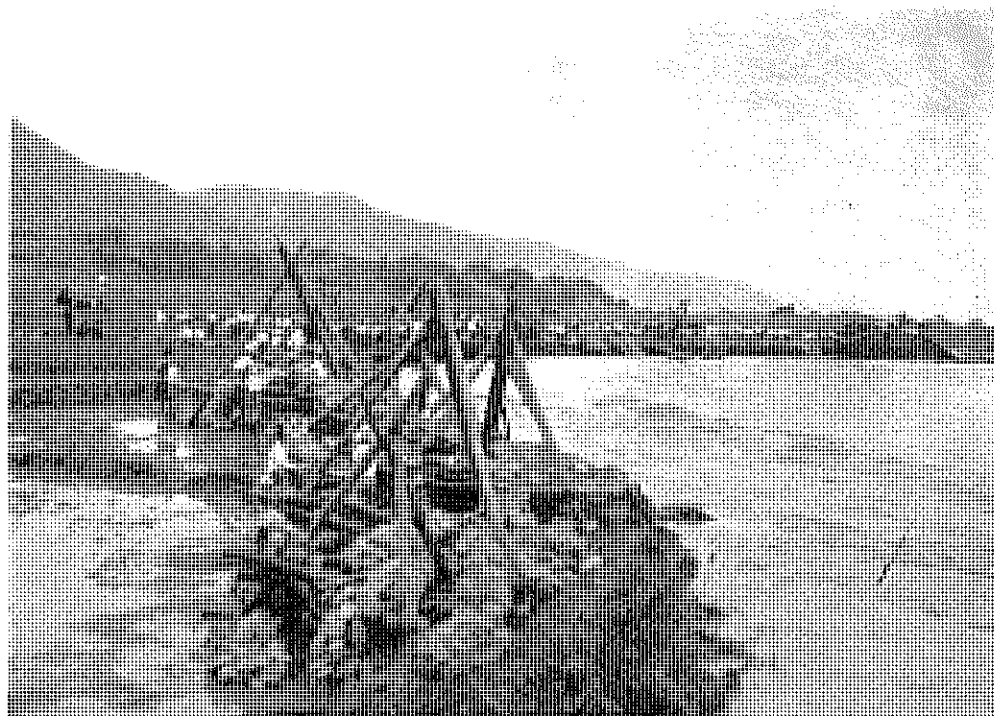


表-18

| 空 俵 | な わ | む しろ | か ま す |
|---|--|---|--|
|  172千俵 |  22千貫 |  9千枚 |  38千枚 |
| 竹 | 生 木 | 丸 太 | 板 類 |
|  70千本 |  20千本 |  71千本 |  600石 |
| 蛇 籠 | 鉄 線 | 置 石 | 麻 袋 |
|  17.8千本 |  79千kg |  8千M ³ |  25千袋 |
| た た み | く ぎ | か す が い | 竹 蛇 籠 |
|  1,500枚 |  123kg |  1,400丁 |  670本 |



必死の水防作業により氾濫をくいとめた犀川（犀川筋明科町光地籍）



水防作業に懸命の婦人会（下伊那郡高森町地籍）

3—4 自衛隊の活動状況と応急対策

(1) 概 況

県は、6月27日午後11時、飯田市より時態が緊急化したために自衛隊の派遣申請の依頼を受けるや直ちに検討のうえ、緊急救助と、応急復旧のため、陸上自衛隊松本駐とん部隊に災害派遣を要請し、一方飯田方面への進入路について伊那、飯田に連絡をとったが天竜川に流入するいわゆる伊那の七谷および中小溪流が氾濫したため、全線はほとんどが欠壊箇所の連続で交通確保は相当の困難を伴うことが判明した。

そこで、翌28日には、さらに航空自衛隊にも派遣を依頼したが、なお降り続く雨のためと基地(設ヶ浦)が悪天候のために飛行は困難とのことで、やむを得ず地上より偵さつをしながら松川町—豊丘村—番木村—飯田市のルートを進入手として確保することとした。

まず、飯田まで交通確保することを第一の目標に自衛隊(松本駐とん部隊)を中心として崩土の取除き、仮橋の架設あるいは破提箇所の締切等を行なうにむき突進し、これに必要な資材は民間からの貨物自動車も借りあげて輸送部隊を編成する。一方営林局からは貯木材の緊急払出を受けるなどをして後を追いつく30日には伊那谷へ伊那谷へと復旧資材を積んだ緊急自動車は後をたたない状況となった。

28日夜、大鹿村より役場職員が飯田にたどりつき大西山の大崩壊など非害の激甚なことが報告されたため(註)大西山の大崩壊により建設省天竜川上流工事事務所小渋川出張所は吹飛ばされ職員も殉職し無電連絡等とは絶していた)。松川町に自衛隊と、物資輸送関係の本部をおき、飯田方面と、小渋川水系(中川村、大鹿村方面)との二方面に分かれて作業を進めることとなった。

この間、自衛隊第一管区からは給水中隊および第一工軍(工兵团)等のほか高田、宇都宮等からも続々派遣されることになり、県としては連絡道路の要所にはブルドーザーを待期させるなどして、道路の確保に当たった。



現地視察にヘリコプターで到着した中村建設大臣

(2) 自衛隊の活動状況

派遣延人員 42,508人

作業の内容 人命救助, 行方不明者の発見, 負傷者の救出, 交通の確保, 水防作業, 給水, 防疫,
食糧, 衣糧, 医薬品の輸送

出動ヘリコプター 下伊那 169機 (含米軍機民間機) 上伊那 15機

(3) 松川基地の職務分担表

| | |
|--|-----------------|
| 本部 | 自衛隊 |
| 高尾囁託 | 派遣隊長 多田陸将補 |
| 総指揮 木村砂防課長 | 高級幕僚 大西一佐 |
| 土木関係主任 増田係長 | 第一ヘリコプター隊長 芝田一佐 |
| 物資輸送関係主任 藤田税務課長 | 第一施設大隊 高村二佐 |
| | 建設大隊長 西村二佐 |
| 係員 庶務係4名, ヘリポート係11名, 物資検収係2名, 資材係3名, 連絡係3名 | |

表-19 陸上自衛隊の活動状況

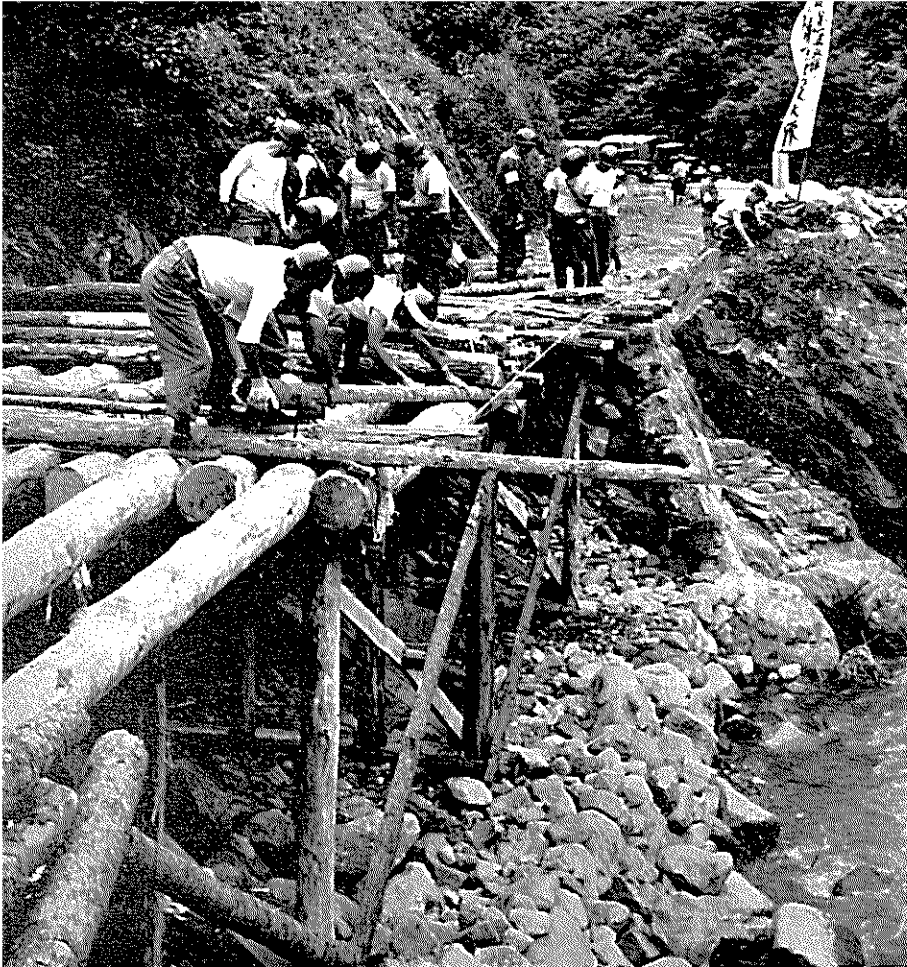
| 地区名 | 作業内容 | 月日 | 摘要 |
|-----|-------------------------------------|-----------|--|
| 上伊那 | 伊那市 三峯川, 中県, 南割の水防作業 | 6/29~6/30 | 県道開通5路線 橋りよう架設2橋 歩道開設 |
| | 飯島町 日曾利地籍水路復旧 | 6/30~7/2 | |
| | 中川村 四徳地区死体発掘道路復旧 | 6/29~7/9 | |
| | 駒ヶ根市 救助作業道路復旧水防作業給水電灯復旧資材運搬 | 6/30~7/8 | |
| 下伊那 | (朝霞駐とん部隊) 道路, 橋りよう復旧作業ブルドーザー3台使用 | 7/1~7/16 | 県道開通5路線 橋りよう架設2橋 寺沢川, 芦部川等の取付け 道路開設 |
| | 松川町 水防作業, 道路復旧 | 6/28~7/16 | |
| | 大鹿村 資材運搬, 橋りよう架設 | // | |
| | 南信濃村 救助作業, 給水作業 | // | |
| | 清内路村 電灯引込 | // | |
| | 高森町 交通確保 | // | |
| 飯田市 | // | // | |

表-20 自衛隊の派遣人員

| 管内 | 7月1日 | 7月5日 | 延人員 | 摘要 |
|-----|-------|-------|--------|-------------|
| | 現存 | 現在 | | |
| 上伊那 | 469 | 470 | 6,152 | 6月29日~7月13日 |
| 下伊那 | 2,634 | 2,963 | 36,356 | 6月28日 7月16日 |
| 計 | 3,103 | 3,433 | 42,508 | |

表-21-1 自衛隊の派遣状況

| | | | | 下伊那 | 上伊那 |
|-----|-----------|-----|------|-------|-----|
| | | | | 人 | 人 |
| 松本 | 普通科 | 13 | 連隊 | 741 | 125 |
| 高田 | // | 2 | 連隊 | 343 | |
| 宇都宮 | 施設隊 | | | 232 | 344 |
| 朝霞 | 重工兵 | 102 | 建設大隊 | 320 | |
| 南古河 | 工兵 | 1 | 施設大兵 | 225 | |
| 北古河 | 給水中隊 | | | 28 | |
| 練馬 | 通信隊ほか | | | 417 | |
| 霞ヶ浦 | 第一ヘリコプター隊 | | | 55 | |
| 新町 | 普通科 | | | 273 | |
| | 計 | | | 2,634 | 469 |
| 合 | 計 | | | 3,103 | |



陸上自衛隊の道路応急工事
(新宮川上流駒ヶ根地籍)

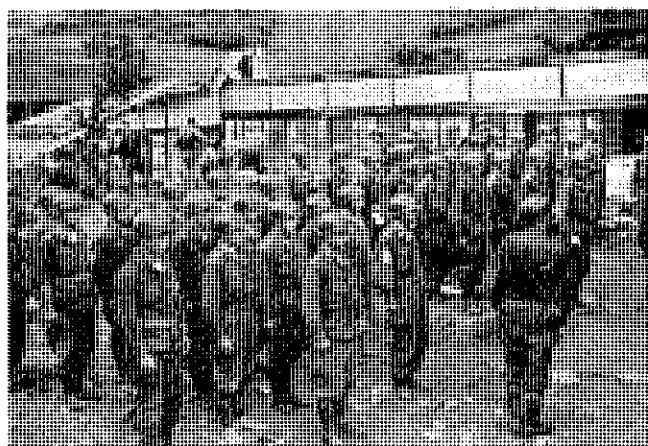


陸上自衛隊田部隊による道路応急工事
(駒ヶ根市四徳線地籍)

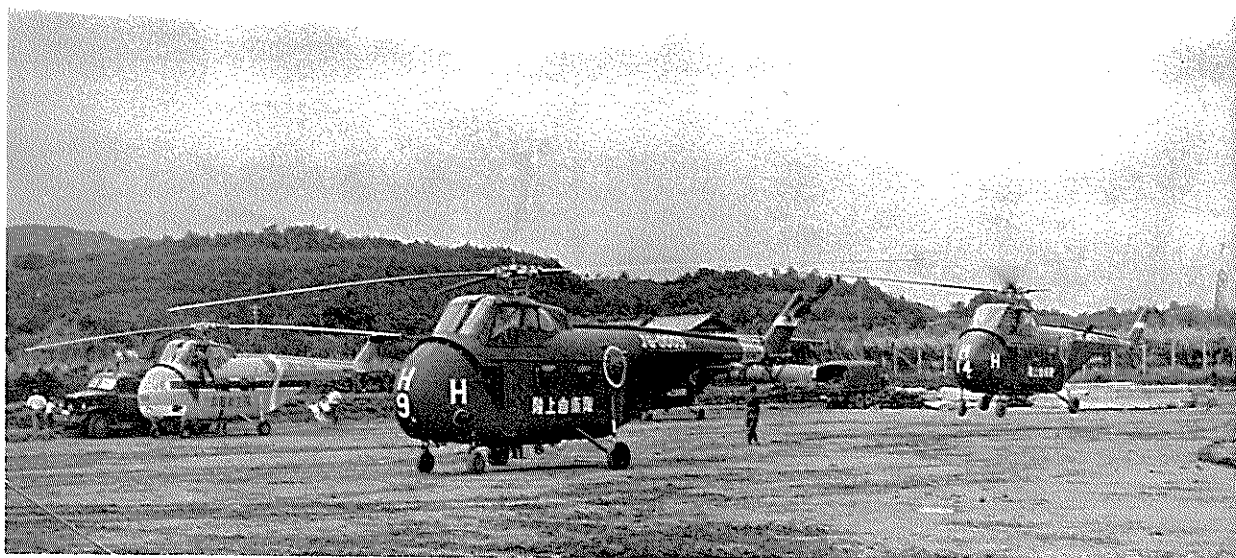




西沢知事等と打ち合わせをする自衛隊幹部（松川町役場）



半壊の上伊那郡農協前に整列した自衛隊



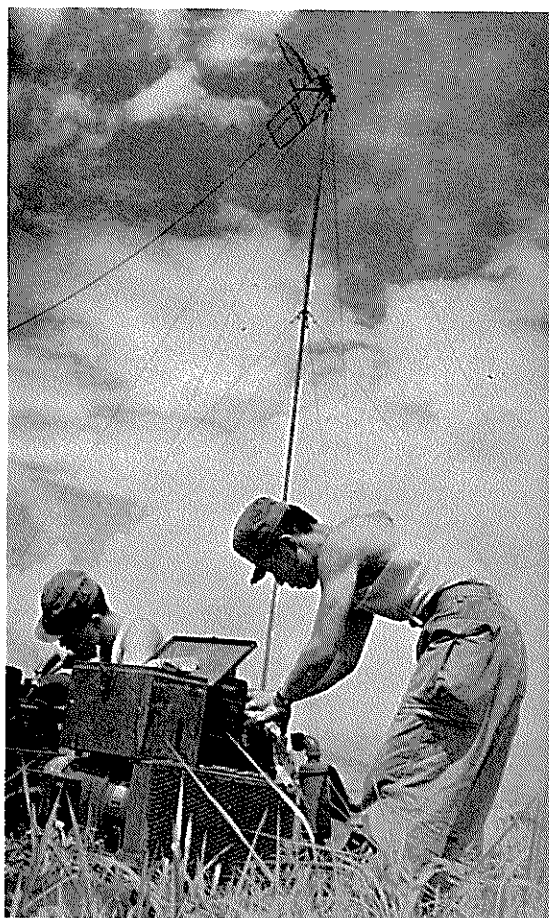
救援物資、人命救助に活躍した陸上自衛隊ヘリコプターの到着

表21-2 ヘリコプターによる救援実績

| 基地 | 飛行地域 | 実働機 | 延飛行回 | 空輸量 kg |
|-----|------|-----------------|------|---------|
| 上伊那 | 上伊那 | 20 | 105 | 25,986 |
| 下伊那 | 下伊那 | 最高22機 (7月3日) | 572 | 104,116 |
| " | 上伊那 | | | 18,385 |
| 計 | | | 677 | 148,487 |



米軍ヘリコプター隊長と打ち合わせを行う笠原副知事



(下伊那郡松川町)

災害情報を連絡に自衛隊の通信隊も活躍



浸水地帯の人々のために自衛隊が共同浴場を用意（飯田市川路地帯）

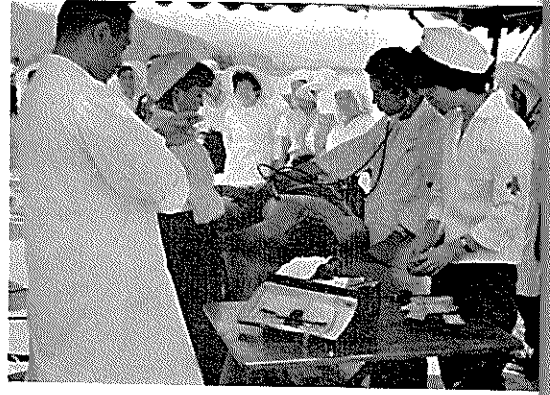


消毒作業（飯田市川路地帯）

3-5 救護活動

被害が広範囲でしかも激甚であるところから、衛生部保健所が中心となり自衛隊をはじめ、日赤救護班、NHK救護班等の活躍も目ざましく多くの人命を救うことができた。

すなわち、死者、行方不明136名、重軽傷者1,100名余に及びこれらの手当はもとより家屋の被害も多く、食糧飲料水衣料等のほか伝染病等の発生も心配されたため、これらの防疫にも力が注がれた。



(1) ヘリコプター隊の活躍

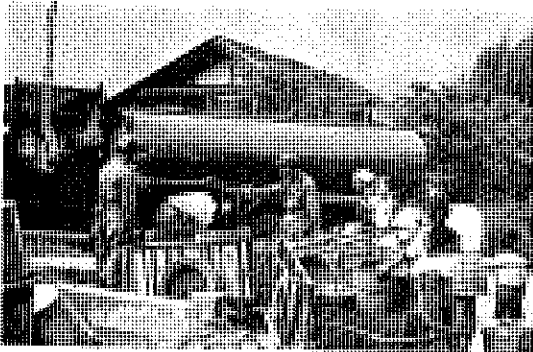
山間部に孤立した部落への食糧、衣料、医薬品、日用品の輸送および藪等の搬出、防疫、給水等。

(2) 日赤救護班の活躍

下伊那地区……………豊科、長野、諏訪、下伊那赤十字病院等17救護班

上伊那地区……………日赤救護班および信大医療班等が救護活動に当たった。

(死体の処置、重軽傷者の手当、病人の治療等)医師延162人、看護婦312人、その他、117人
人取扱患者6,941人

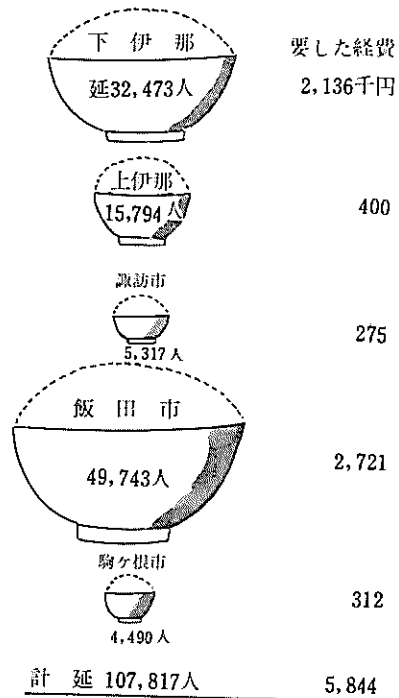


給水状況(下藤岡地区)



表-22 飲料水の供給

表-23 放出し



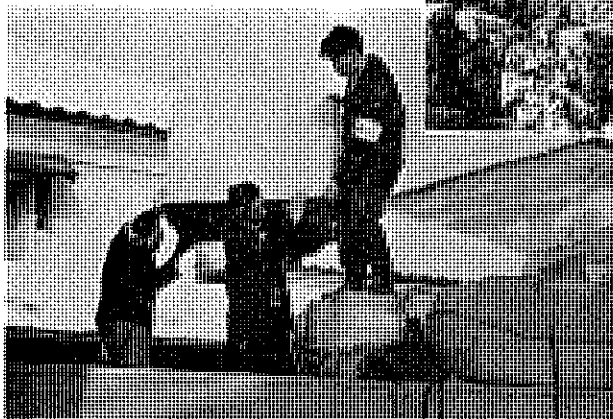
3-
(1
2
法が
に上
村と
増加
に及
を現
他を
込ま
国各
欲を

3-6 災害救助の実施状況

(1) 災害救助法の発動

28日午前1時30分飯田市に災害救助法が発動され、続いて2時10分竜江村に以後高森町豊丘村上郷村松川町中川村と被害の拡大とともに適用市町村も増加し6月30日までに3市4町10箇村に及んだこのため県は直ちに救助物資を現地に急送するとともに、日赤その他を通じても続々と物資が現地へ送り込まれ、被災者に配布され、また、全

国各地、さては海外からまでも暖かい、支援の手がさしのべられ、失意のどん底にあった住民の復興への意欲を燃えたたせ大きな力となった。



救援物資の積み込み



春蒔の積み込み（下伊那郡大鹿村）

懸命な排土作業（松川中学校基地）

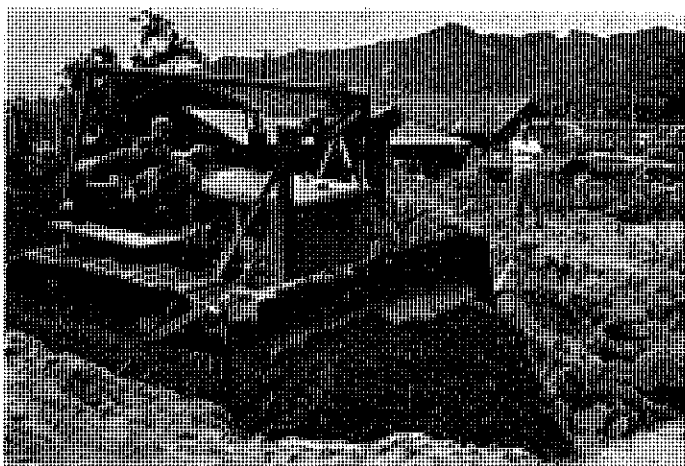




表-24 災害救助法適用市町村一覧

| 郡市別 | 適用市町村数 | 市町村名 |
|------|---------|--|
| 上伊那郡 | 1 町 2 村 | 高遠町, 中川村, 長谷村 |
| 下伊那郡 | 3 町 8 村 | 鼎町, 松川町, 高森町, 上郷村, 清内路村, 阿智村, 竜江村, 喬木村, 豊丘村, 大鹿村, 南信濃村 |
| 市 | 3 市 | 飯田市, 諏訪市, 駒ヶ根市 |

表-25 災害救助費内訳

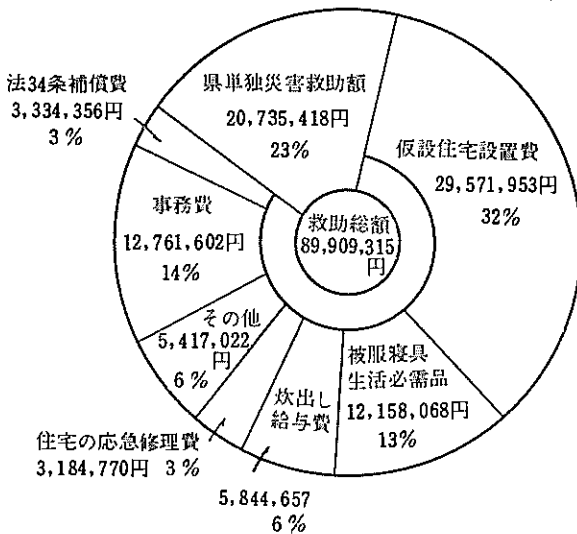


表-26

| 義えん金品の状況 | |
|----------------|----------|
| 長野県寄託 | 14,983千円 |
| 郡市区 | 5,775 |
| N H K (長野, 松本) | 114 |
| 信濃毎日新聞社 | 8,181 |
| 団体および個人 | 1,654 |
| 日赤関係 | 4,191 |
| 計 | 34,899 |

県に寄託された内訳

| | |
|----------------|--------|
| 御下賜金 | 70 |
| 長野県人会 | 1,364 |
| サンパワロシアトル長野県人会 | 251 |
| 報道機関寄託 | 8,708 |
| 各府県その他 | 4,920 |
| 県 | 14,983 |

表-29 (6) 災害救助法発令市町村の被害状況

| 市町村名 | 罹災総数 | | 人的被害 | | 住宅の被害 | | | | 非住家 の被害 | 災害救助 法適用 月 日 | | | | | | | | | | | |
|------|----------------------------|---------|----------|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------------|----------------------------|--------------------|-------------------------|------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 戸 数 | 世帯 数 | 死者 | 重傷 | 全 壊 | 流 出 | 半 壊 | 床上浸水 | | | 床下浸水 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 行方不明 | 軽傷 | 人 | 員 | 人 | 員 | 人 | 員 | 人 | 員 |
| | | | | | | | | | | | | 人 | 員 | 人 | 員 | 人 | 員 | 人 | 員 | | |
| 飯田市 | 6,151 6,357 26,029 | | 11 5 | 19 314 | 218 265 1,155 | 62 65 254 | 245 264 1,211 | 399 418 1,813 | 5,227 5,345 21,580 | 489 | 6.28 1.30 | | | | | | | | | | |
| 竜江村 | 275 275 1,227 | | 1 | — | 9 9 43 | — | 13 13 54 | 98 98 431 | 155 155 698 | 21 | — — 2.10 | | | | | | | | | | |
| 高森町 | 565 565 2,456 | | 9 2 | 17 | 23 23 118 | 42 42 202 | 43 43 210 | 97 97 475 | 360 360 1,440 | — | — — 7.10 | | | | | | | | | | |
| 上郷村 | 266 279 1,204 | | — | 5 | 3 3 12 | 26 29 131 | 16 16 60 | 80 81 400 | 141 150 601 | 2 | — — 8.10 | | | | | | | | | | |
| 豊丘村 | 462 477 2,295 | | 2 | 4 18 | 18 18 69 | 25 25 115 | 25 25 107 | 84 89 402 | 310 320 1,600 | 352 | — — 8.10 | | | | | | | | | | |
| 松川町 | 1,077 1,122 5,561 | | 7 | 6 35 | 30 30 135 | 29 29 113 | 23 23 118 | 6 6 29 | 989 1,034 5,159 | 79 | — — 9.30 | | | | | | | | | | |
| 中川村 | 295 297 1,375 | | 14 4 | 5 3 | 27 27 130 | 70 71 335 | 34 35 187 | 37 37 186 | 127 127 519 | 115 | — — 12.40 | | | | | | | | | | |
| 鼎町 | 1,607 1,685 7,538 | | — 2 | 1 2 | 5 5 13 | 2 2 6 | 44 50 206 | 56 58 244 | 1,500 1,570 7,067 | 10 | — — 17.00 | | | | | | | | | | |
| 清内路村 | 176 177 1,160 | | 1 | 3 15 | 12 13 56 | 6 6 22 | 15 15 65 | 23 23 116 | 120 120 900 | 8 | — — 18.20 | | | | | | | | | | |
| 駒ヶ根市 | 191 195 563 | | 2 3 | 1 3 | 34 34 152 | 31 31 132 | 33 35 192 | 4 4 15 | 15 15 67 | 137 | — — 18.50 | | | | | | | | | | |
| 諏訪市 | 2,601 2,676 10,421 | | — | — | — | — | — | 1,555 1,630 6,204 | 1,046 1,046 4,217 | — | — — 6.29 8.00 | | | | | | | | | | |
| 大鹿村 | 506 522 2,166 | | 34 21 | 42 600 | 66 69 290 | 51 53 163 | 45 47 204 | 47 52 234 | 297 301 1,220 | 14 | — — 8.00 | | | | | | | | | | |
| 喬木村 | 381 391 2,048 | | 2 | 3 3 | 14 14 61 | 5 5 25 | 17 17 87 | 45 45 223 | 300 300 1,650 | 10 | — — 13.30 | | | | | | | | | | |
| 長谷村 | 153 157 897 | | 3 | 2 | 9 9 43 | 9 13 183 | 12 12 109 | 78 78 367 | 45 45 190 | 6 | — — 14.30 | | | | | | | | | | |
| 阿智村 | 237 237 966 | | 1 1 | 1 2 | 14 14 48 | 4 4 13 | 6 6 24 | 83 83 349 | 130 130 520 | — | — — 15.00 | | | | | | | | | | |
| 南信濃村 | 142 142 638 | | — | 13 | 12 12 50 | 5 5 32 | — | 54 54 224 | 71 71 332 | 4 | — — 6.30 13.30 | | | | | | | | | | |
| 高遠町 | 201 201 977 | | 3 | — | 4 4 20 | — | 2 2 11 | 46 46 201 | 149 149 742 | — | — — 21.30 | | | | | | | | | | |
| 計 | 15,217 14,669 67,521 | | 90 38 | 109 1,008 | 498 549 2,395 | 367 380 1,726 | 575 603 2,845 | 2,792 2,899 11,915 | 10,982 11,238 48,512 | 1,247 | — | | | | | | | | | | |

—
助
用
1
—
28
30

10

10

10

10

.30

.40

7
.00

7
1.20

//
3.50

5.29
3.00

//
8.00

//
3.30

//
4.30

//
5.00

6.30
13.30

//
21.30

—



埋没した民家を掘返し復旧に立ちあがつた（上伊那郡飯島町）



泥水で埋つた家の中の排土作業（下伊那郡竜江村）



現地視察をして被災者から状況説明を受ける
西沢知事および中村県議会議長
(飯田市地先)



県議会本会議において災害状況を説明



水害現地を視察する西沢知事，中村県議会議長
(上郷村地先野底川)

3-7 政府関係係官の現地視察および調査

被害の激甚さを聞いて建設省では直ちに査定官を現地調査に派遣され、さらに事態の非常なる様子に山本技監、また、中村建設大臣も現地に来られるなど陣頭に立つて対策と指導に当られた。

- 6.29 建設省河川局防災課、宮下査定官、砂防課本田係長調査のため来県、諏訪一伊那一飯田一県庁
- 7.3 田中係長（砂防課説明）
- 7.1 山本建設技監視察のため来県（岡崎技官外）（夜宮下、査定官と打合せ。）篠ノ井廻り一諏訪一伊那一飯田一
- 7.4 土木部長、竹花技幹説明のため随行
- 7.4 中村建設大臣、畑谷防災課長、藁輪二級国道課長、尚住宅建設課長、秘書官二名来県（夜、山本技監と打合せ）
- 7.6 副知事、土木部長、道路課長、竹花技幹説明随行 議長、自民党県連会長木内代議士出席
- 7.8 建設省防災課調査査定官、舟津課長補佐、災害復旧工法指導のため来県、
- 8~13飯田管内 随行 河川課 川久保災害復旧係長
- 7.19 13~17伊那 // 道路課 山崎補修係長
- 17~18諏訪 //
- 7.8 建設省 矢野砂防課長、防災課殿真土木専門官 大蔵省 上田監査官調査のため来県
- 7.11 （伊那、飯田管内） 随行 道路課竹花技幹、砂防課、松林砂防係長

国会関係 6.30~7.1 小酒井参院災害対策委員長、下平衆院議員来県、唐木専門調査員随行

3-8 復旧工事のために

降雨が始まるとともに水防活動に、被害の報告に、あるいは被災者の救助にと、県内をあげて大自然との闘いに不眠不休の努力が展開されたのであるが、それに引続いて直ちに復旧工事に取り組まねばならなかつた。

とくに、土木部としては河川、道路等の公共物の

管理をしているため、緊急にこれの復旧をしなければならず、そのため東北信地方の水防態勢の見とおしがつくや、29日にはこれらの地方より南信地方の状況に詳しい技術職員15名を取あえず第一陣として現地へ送



復旧計画の測量に活躍する土木部職員



復旧工事の設計に頑張る職員

り込み、連日連夜の奮闘に疲労していた現地職員を助け、被害の調査に、応急工事の復旧のために活躍を開始した。

しかし県内の技術職員には限度があり、短時日の間に大きな復旧工事の設計の樹立、また、それらの工事の監督を完全にすることは不可能に近いものと考えられたため、建設省にお願いし、また各県にも依頼をして技職員の応援を受け、また機動力を持たせるためにジープ等も借用し、あるいは民間の技術陣（測量会社コンサルタント）や、河川協会等よりの技術職員の応援を受けるなどして一日も早く復旧できるよう査定設計や、実施設計の樹立に一九となって取組んだ。

昼夜を分たず、精根を傾けて頑張った職員の中には、疲労のために倒れる者も出るなど筆舌につきせぬ努力が続けられた。

一方、教育委員会としては、異例の処置として高等学校の土木科の生徒を実習ということでも測量、製図等の補助として従事させるなど協力がなされ、さしもの大災害も、これらのひとびとの献身的な作業のお蔭で復旧の方面にたづなを向けることができた。

表-30 公共土木施設災害復旧事業査定および検査官氏名

(1) 緊急査定 昭和36年8月3日～8月16日

(検査官氏名順序不同)

| 査定官 | 事務官 | 検査官 | 検査官 | 検査官 | 検査官 | 検査官 |
|-------|-------|---------|---------|-------|---------|-----------|
| 関 周 三 | 松 原 肇 | 舟 津 常 一 | 武 藤 徳 一 | 岩 田 隆 | 吉 川 安 正 | 堀 籠 仁 三 郎 |

(2) 第一次本査定 昭和36年10月8日～10月21日

| | | | | | | |
|-------|-------|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 関 周 三 | 小 寺 勉 | 金 子 泰 助 | 山 里 尚 英 | 笠 井 重 行 | 糸 林 芳 彦 | 内 田 恵 之 助 |
|-------|-------|---------|---------|---------|---------|-----------|

(3) 第二次本査定 昭和36年12月12日～12月26日

| | | | | | | |
|-------|-------|---------|-----------|---------|---------|---------|
| 関 周 三 | 藤 倉 茂 | 舟 津 常 一 | 堀 籠 仁 三 郎 | 島 田 潤 一 | 岡 島 成 夫 | 山 内 経 福 |
|-------|-------|---------|-----------|---------|---------|---------|

なお、職員の応援状況は次のとおりである。

表-30-2 応援を受けた職員（県外）

| 所 属 | 職 員 数 | 期 間 | 摘 要 |
|------|------------------|-------------|-------|
| 北陸地建 | 技 官 5 運 転 手 1 | 7/ 6～ 8/ 5 | 飲 田 へ |
| 東北 " | 技 官 5 | 7/ 3～ 8/ 5 | 伊 那 へ |
| 関東 " | " 5 | 7/ 4～ 8/ 5 | 飯 田 へ |
| 山形県 | 技 師 3 | 7/ 4～ 8/ 5 | 伊 那 へ |
| 宮城県 | " 3 | 7/ 3～ 8/ 5 | 飯 田 へ |
| 新潟県 | " 2 | 7/ 4～ 8/ 5 | " |
| 鹿児島県 | 技 師 2 技 師 補 1 | " " | " |
| 秋田県 | 技 師 3 | " " | 伊 那 へ |
| 千葉県 | " 2 | 9/16～11/15 | 伊 那 へ |
| 埼玉県 | " 4 | 9/15～12/20 | " |
| 茨城県 | " 2 | 9/25～12/20 | " |
| 石川県 | " 1 | 10/ 1～12/20 | " |
| 熊本県 | " 3 | 10/21～12/20 | " |
| 長崎県 | 技 師 8 | 10/24～11/23 | 飯 田 へ |

| 所 属 | 職 員 数 | 期 間 | 摘 要 |
|-----|-------|-------------|-------|
| 栃木県 | " 4 | 9/11～12/10 | 飯 田 へ |
| 東京都 | " 2 | 9/18～12/17 | " |
| 群馬県 | " 2 | 9/19～12/20 | " |
| 福島県 | " 2 | 10/ 1～12/20 | " |
| 富山県 | 技 師 2 | 10/ 1～12/20 | " |
| 宮城県 | " 2 | 10/16～12/20 | " |
| 佐賀県 | " 1 | 10/20～12/20 | " |
| | 66人 | 延 3,465人 | |

表-30-3 県内の応援職員

(昭37.3.28調)

| 所 課 名 | 飯 田 | | 伊 那 | | 計 | | 備 考 |
|-----------|-----|-------|-----|-------|-----|--------|-----|
| | 人 員 | 日 数 | 人 員 | 日 数 | 人 員 | 日 数 | |
| 白田建設事務所 | 5 | 365 | 3 | 101 | 8 | 466 | |
| 岩村田同 | 5 | 139 | 3 | 185 | 8 | 324 | |
| 上田同 | 6 | 260 | — | — | 6 | 260 | |
| 諏訪同 | 3 | 129 | — | — | 3 | 129 | |
| 伊那同 | — | — | — | — | — | — | |
| 飯田同 | — | — | — | — | — | — | |
| 福島同 | — | — | — | — | — | — | |
| 松本同 | 11 | 543 | 12 | 518 | 23 | 1,061 | |
| 豊科同 | 2 | 51 | 3 | 148 | 5 | 199 | |
| 大町同 | 8 | 429 | 1 | 10 | 9 | 439 | |
| 篠ノ井同 | 2 | 61 | — | — | 2 | 61 | |
| 屋代同 | 2 | 91 | 1 | 48 | 3 | 139 | |
| 須坂同 | 2 | 90 | 1 | 48 | 3 | 138 | |
| 中野同 | 6 | 236 | 1 | 46 | 7 | 282 | |
| 長野同 | 9 | 326 | 1 | 10 | 10 | 336 | |
| 飯山同 | 1 | 19 | 1 | 43 | 2 | 62 | |
| 犀川砂防事務所 | 2 | 173 | 1 | 43 | 3 | 216 | |
| 土尻川同 | 2 | 88 | — | — | 2 | 88 | |
| 姫川同 | 1 | 5 | 1 | 42 | 2 | 47 | |
| 奈良井川改良事務所 | — | — | 2 | 59 | 2 | 59 | |
| 企画調査課 | 5 | 116 | 3 | 100 | 8 | 216 | |
| 監理課 | 7 | 106 | 4 | 66 | 11 | 172 | |
| 道路課 | 9 | 328 | 5 | 283 | 14 | 611 | |
| 河川課 | 7 | 483 | 6 | 219 | 13 | 702 | |
| 砂防課 | 7 | 239 | 5 | 356 | 12 | 595 | |
| 都市計画課 | 1 | 43 | 1 | 48 | 2 | 91 | |
| その他課 | 7 | 120 | 4 | 97 | 11 | 217 | |
| 県外応援 | 43 | 2,149 | 23 | 1,316 | 66 | 3,465 | |
| 計 | 153 | 6,589 | 82 | 3,786 | 235 | 10,375 | |

表-31 昭和36年災害応援職員一覧(建設省関係)

| 所 属 | 氏 名 | 所 属 | 氏 名 |
|---------|-------|--------|-------|
| 北陸地方建設局 | 山内 経禧 | 〃 | 齊藤 清志 |
| 〃 | 若林 清栄 | 〃 | 馬場 秋男 |
| 〃 | 勝山 守 | 〃 | 高橋 成 |
| 〃 | 梅本 明男 | 東建設地方局 | 黒沢 幸一 |
| 〃 | 山下 隆久 | 〃 | 深井 晃 |
| 〃 | 福島 和友 | 〃 | 大場 健司 |
| 東建設地方局 | 寺島 正志 | 〃 | 兒島 敏勝 |
| 〃 | 岩淵 敬秋 | 〃 | 黒河内春雄 |

表-32 昭和36年災害応援職員一覧(他府県関係)

| 県 名 | 氏 名 | 県 名 | 氏 名 |
|-----|-------|-----|-------|
| 栃木県 | 栗原 実雄 | 〃 | 数度 孝夫 |
| 〃 | 郡司平八郎 | 埼玉県 | 深田 稔 |
| 〃 | 田辺 英昭 | 〃 | 小林 博 |

| 県 名 | 氏 名 | 県 名 | 氏 名 | 県 名 | 氏 名 |
|-----|-------|-----|-------|------|-------|
| 〃 | 橋本 久広 | 〃 | 沖村 行正 | 山形県 | 阪本 操 |
| 〃 | 小峯 太平 | 宮城県 | 佐々木邦俊 | 〃 | 斉藤 光夫 |
| 東京都 | 滝沢 英夫 | 〃 | 佐藤喜久治 | 〃 | 三浦 孝治 |
| 〃 | 伊達 允紀 | 熊本県 | 加来 英器 | 宮城県 | 菅原 郁郎 |
| 〃 | 北沢 亨一 | 〃 | 福永 力 | 〃 | 関川 重憲 |
| 千葉県 | 土屋 章 | 〃 | 入江 船一 | 〃 | 鈴木 長孝 |
| 〃 | 土屋 和義 | 佐賀県 | 土井 末年 | 秩田県 | 川島 吉雄 |
| 茨城県 | 仲村 雅俊 | 長崎県 | 宮田 牧人 | 〃 | 伊藤 善一 |
| 〃 | 小池 仁 | 〃 | 堤 勝敏 | 〃 | 中川 実 |
| 群馬県 | 戸塚 尚 | 〃 | 小島井 清 | 新潟県 | 谷 滝夫 |
| 〃 | 稲葉 信雄 | 〃 | 静岡 敏之 | 〃 | 川又 敏郎 |
| 福島県 | 佐藤 昭 | 〃 | 広岡 照人 | 〃 | 足立 富一 |
| 〃 | 広川 継男 | 〃 | 牛島 悦夫 | 鹿児島県 | 久保田幸夫 |
| 石川県 | 宮下 源和 | 〃 | 徳永 実 | 〃 | 大山 登 |
| 富山県 | 吉井 敏英 | 〃 | 重松 洋 | 〃 | 本村 利雄 |